

新居浜工業高等専門学校				生産工学専攻（環境材料工学コース）				開講年度		平成30年度（2018年度）					
学科到達目標															
到達目標															
1. 自然科学および複合的な工学の知識：工学の基礎知識と融合・複合的な工学専門知識を身につけ、応用することができる。															
2. 専門知識：機械・材料専門分野の基礎知識・技術を理解し、それらを用いて応用問題を解決することができる。															
3. デザイン能力：工学専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行でできる。															
4. 教養・技術者倫理：豊かな教養をもち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。															
5. コミュニケーション能力：論理的表現ができ、相手の話を理解し自分の考えを示すことができる。															
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	英語演習書購読	600003	履修単位	2	2		2						平田 隆一郎	
一般	必修	工業数学 A	600005	学修単位	2	2								古城 克也	
一般	必修	工業数学 B	600006	学修単位	2			2						大村 泰	
一般	選択	日本文化史	600101	学修単位	2			2						佐伯 徳哉	
一般	選択	国文学	600102	学修単位	2	2								野田 善弘	
一般	選択	国際文化理解	600107	学修単位	2	2								野田 善弘, 木田 綾子	
一般	選択	社会科学概論	600108	学修単位	2			2						未 定	
専門	必修	プログラミング演習	610003	履修単位	1			2						三井 正	
専門	選択	制御工学	610005	学修単位	2			2						糸野 紘範	
専門	必修	生産技術英語演習	610011	履修単位	1	2								次田 泰裕	
専門	必修	材料機能制御実習	610017	履修単位	3	3		3						日野 孝紀, 平澤 英之	
専門	必修	材料機能設計学	610018	学修単位	2	2								高見 静香, 日野 孝紀, 朝日 太郎	
専門	必修	生産工学ゼミナール Z 1	610022	履修単位	2	2		2						高見 静香, 真中 俊明	
専門	選択	デジタルエンジニアリング	610027	学修単位	2			2						谷脇 充浩	
専門	必修	特別研究 1	610031	履修単位	3	3		3						新田 敦己, 志賀 信哉, 松英 達也, 日野 孝紀, 高見 静香, 松原 靖廣, 朝日 太郎, 平澤 英之, 當代 光陽, 真中 俊明	
専門	選択	科学技術表現演習	610033	履修単位	1	2								平澤 英之	
専門	選択	起業工学	610103	学修単位	1			1						眞鍋 正臣	
専門	選択	ベンチャービジネス概論	610104	学修単位	1			1						眞鍋 正臣	
専門	必修	材料強度物性	610106	学修単位	2	2								日野 孝紀	
専門	選択	振動工学	610108	学修単位	2			2						玉男 木隆之	

専門	必修	無機材料特論	610111	学修単位	2	2							平澤 英之	
専門	必修	先端複合材料	610112	学修単位	2	2							松英 達也	
専門	必修	材料組織学	610113	学修単位	2			2					高橋 知司	
専門	必修	材料熱力学	610114	学修単位	2			2					平澤 英之	
専門	選択	精密加工学	610115	学修単位	2	2							平田 傑之	
専門	選択	シニア・インターンシップ	610121	履修単位	2	集中講義							谷脇 充浩	
専門	選択	量子エレクトロニクス	610122	学修単位	2	2							福田 京也	
専門	選択	基礎量子化学	610123	学修単位	2	2							勝浦 創	
一般	必修	人間と倫理	600001	学修単位	2					2			濱井 潤也	
一般	必修	科学英語表現	600004	履修単位	2					2		2	平田 隆一郎	
一般	選択	現代社会と法	600104	学修単位	2					2			未 定	
専門	必修	電磁気学	610004	学修単位	2					2			香川 福有	
専門	必修	マイクロエレクトロニクス	610006	学修単位	2							2	福田 京也	
専門	必修	コンピュータ・アナリシス	610007	学修単位	2							2	松友 真哉	
専門	選択	デザインテクノロジー	610009	学修単位	2					2			吉川 貴士	
専門	必修	数値計算法及び演習 A	610019	学修単位	3					4			三井 正	
専門	必修	数値計算法及び演習 B	610020	学修単位	3							4	三井 正	
専門	必修	生産工学ゼミナール Z 2	610024	履修単位	2					2		2	新田 敦己, 志賀 信哉, 松英 達也, 日野 孝紀, 高見 静香, 松原 靖廣, 朝日 太郎, 平澤 英之, 當代 光陽, 真中 俊明	
専門	必修	特別研究 2	610032	履修単位	4					4		4	新田 敦己, 志賀 信哉, 松英 達也, 日野 孝紀, 高見 静香, 松原 靖廣, 朝日 太郎, 平澤 英之, 當代 光陽, 真中 俊明	
専門	必修	機能性材料学 1	610101	学修単位	2							2	矢野 潤	
専門	必修	機能性材料学 2	610102	学修単位	2							2	高見 静香, 當代 光陽	
専門	選択	流体力学特論	610105	学修単位	2							2	谷脇 充浩	
専門	選択	熱工学	610107	学修単位	2							2	下村 信雄	
専門	選択	伝熱工学特論	610109	学修単位	2					2			下村 信雄	

専門	選択	材料強度評価法	610110	学修単位	2					2			谷口 佳文	
専門	選択	センサー工学	610116	学修単位	2							2	桑田 茂樹	
専門	選択	デジタル信号処理	610117	学修単位	2							2	今西 望	
専門	選択	品質・安全管理	610118	学修単位	1							1	太田 潔未定	
専門	必修	量子エレクトロニクス	610122	学修単位	2					2			福田 京也	
専門	選択	基礎量子化学	610123	学修単位	2					2			勝浦 創	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語演習書購読
科目基礎情報						
科目番号	600003			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	New Connection 4 技能を高める英語演習 Book 2 （成美堂）					
担当教員	平田 隆一郎					
到達目標						
1. リーディング力が向上する。 2. リスニング力が向上する。 3. 既習の英文法や構文が定着する。 4. 既習の英単語や熟語が定着する。 5. 英語を正しく音読できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リーディング力が向上する。	まとまりのある英語を読んで、その概要や要点を適切に理解できる。		まとまりのある英語を読んで、その概要を理解できる。		まとまりのある英語を読んで、その概要を理解できない。	
リスニング力が向上する。	まとまりのある英語を聞いて、その概要や要点を適切に理解できる。		まとまりのある英語を聞いて、その概要を理解できる。		まとまりのある英語を聞いて、その概要を理解できない。	
既習の英文法や構文が定着する。	既習の構文や文法事項を説明できる。		既習の構文や文法事項を理解できる。		既習の構文や文法事項を理解できない。	
既習の英単語や熟語が定着する。	導入した単語を日本語から英語、英語から日本語にすばやく置き換えることができる。		導入した単語を日本語から英語、英語から日本語に置き換えることができる。		導入した単語を日本語から英語、英語から日本語に置き換えることができない。	
英語を正しく音読できる。	ナチュラルスピードの英文をシャドーイングできる。		ナチュラルスピードの英文をオーバーラッピングできる。		ナチュラルスピードの英文をオーバーラッピングできない。	
学科の到達目標項目との関係						
コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	学生に身近なトピックを扱った4技能を鍛えるテキストを用い、主にリスニングとリーディング能力を向上させ、TOEICのスコアアップを目指す。 辞書・単語帳・文法書を確認する習慣を身に付け、文法・語彙の定着を図る。 繰り返し音読することで英語を「理解する」レベルから「使える」レベルに引き上げることが本授業のねらいである。					
授業の進め方・方法	テキストの内容に沿って2回の授業で1 Unit 進みます。 毎回の授業で小テストを行うので、授業前にしっかりと準備して臨んでください。 授業の内外で音読トレーニング（オーバーラッピングやシャドーイング）を行います。 積極的に英語を声に出して、使える英語力を身につけていきましょう。					
注意点	年2回のTOEIC（IP）を必ず受験すること。 英語力を上げるためには反復と継続が不可欠です。 これまでの自分のスコアを上回れるように一緒に頑張りましょう。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 Roommates		1,2,3,4,5	
		2週	Unit 1 Roommates		1,2,3,4,5	
		3週	Unit 2 Checking Out		1,2,3,4,5	
		4週	Unit 2 Checking Out		1,2,3,4,5	
		5週	Unit 3 Get in Shape		1,2,3,4,5	
		6週	Unit 3 Get in Shape		1,2,3,4,5	
		7週	Unit 4 Money Management		1,2,3,4,5	
		8週	Unit 4 Money Management		1,2,3,4,5	
	2ndQ	9週	Unit 5 Close Ties		1,2,3,4,5	
		10週	Unit 5 Close Ties		1,2,3,4,5	
		11週	Unit 6 Time to Celebrate		1,2,3,4,5	
		12週	Unit 6 Time to Celebrate		1,2,3,4,5	
		13週	Unit 7 Animals in Danger		1,2,3,4,5	
		14週	Unit 7 Animals in Danger		1,2,3,4,5	
		15週	試験			
		16週	まとめ		1,2,3,4,5	
後期	3rdQ	1週	Unit 8 A Fine Art		1,2,3,4,5	
		2週	Unit 8 A Fine Art		1,2,3,4,5	
		3週	Unit 9 Tune In		1,2,3,4,5	
		4週	Unit 9 Tune In		1,2,3,4,5	
		5週	Unit 10 Music to Our Ears		1,2,3,4,5	
		6週	Unit 10 Music to Our Ears		1,2,3,4,5	
		7週	Unit 11 Study Abroad		1,2,3,4,5	

	4thQ	8週	Unit 11 Study Abroad	1,2,3,4,5
		9週	Unit 12 Technology and You	1,2,3,4,5
		10週	Unit 12 Technology and You	1,2,3,4,5
		11週	Unit 13 Right and Wrong	1,2,3,4,5
		12週	Unit 13 Right and Wrong	1,2,3,4,5
		13週	Unit 14 Your Career Starts Now	1,2,3,4,5
		14週	Unit 14 Your Career Starts Now	1,2,3,4,5
		15週	試験	
		16週	まとめ	1,2,3,4,5

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	小テスト	課題	TOEIC	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	工業数学 A	
科目基礎情報							
科目番号	600005			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	高専テキストシリーズ 確率統計 高専の数学教材研究会 編（森北出版）						
担当教員	古城 克也						
到達目標							
1. 標本調査から母平均・母分散・母比率の推定ができるようにする。 2. 標本調査から母平均・母分散・母比率の検定ができるようにする。 3. 2次元確率変数の概念を理解する。 4. さまざまな統計量を理解し、統計量が従う確率分布を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	標本調査から母平均・母分散・母比率の区間推定ができるうえ、サンプルサイズに関する問題も解ける。			標本調査から母平均・母分散・母比率の区間推定ができる。		標本調査から母平均・母分散・母比率の区間推定ができない。	
評価項目2	標本調査から母平均・母分散・母比率の検定ができるうえ、母平均の差・等分散・適合度・独立性の検定もできる。			標本調査から母平均・母分散・母比率の検定ができる。		標本調査から母平均・母分散・母比率の検定ができない。	
評価項目3	離散型・連続型の2次元確率変数の確率分布、確率変数の和の平均や分散が計算できるうえ、正規分布の再生性も理解している。			離散型2次元確率変数の確率分布、確率変数の和の平均や分散が計算できる。		離散型2次元確率変数の確率分布、もしくは確率変数の和の平均や分散が計算できない。	
評価項目4	標本調査から標本平均・標本分散などの統計量が計算でき、これらの従う確率分布を理解し、χ2分布表、t分布表などが活用できる。			標本調査から標本平均・標本分散などの統計量が計算でき、χ2分布表、t分布表などが活用できる。		標本調査から標本平均・標本分散などの統計量が計算できない、もしくはχ2分布表、t分布表などが活用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	工学におけるデータ分析や品質管理に通じる、統計的推定・検定の基礎についての講義を行う。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行う。毎回、問題演習を行い、レポートとして提出してもらう。						
注意点	本科目は必修科目であるので、単位を修得しないと専攻科を修了できない。 また、電卓（関数電卓が望ましい）を毎回持参すること。 本科目は、本科4年で履修した確率統計に続くものである。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	2次元確率変数（§5 多次元確率変数）			3	
		2週	確率変数の和や積の平均と分散			3	
		3週	統計量と標本分布（§6 標本分布）			3,4	
		4週	いろいろな確率分布			3,4	
		5週	点推定、母平均の区間推定（§7 統計的推定）			1	
		6週	母比率の区間推定			1	
		7週	母分散の区間推定			1	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	仮説の検定（§8 統計的検定）			2	
		10週	母平均の検定			2	
		11週	母比率の検定、母分散の検定			2	
		12週	母平均の差の検定（付録A 3）			2	
		13週	等分散の検定			2	
		14週	適合度の検定、独立性の検定			2	
		15週	連続型2次元確率変数、正規分布の再生性（§5、§6）			3,4	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	レポート			合計	
総合評価割合		70	30			100	
基礎的能力		70	30			100	
専門的能力		0	0			0	
分野横断的能力		0	0			0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	工業数学 B	
科目基礎情報							
科目番号	600006			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	工業数学の基礎 相良紘著 （日刊工業新聞社）						
担当教員	大村 泰						
到達目標							
1. 工業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルにより解くことができる。 2. 工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルにより解くことができる。 3. 工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルにより解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	工業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルにより解くことができる。			工業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルを立てることができる。		業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルを立てることができない。	
評価項目2	工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルにより解くことができる。			工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルを立てることができる。		工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルを立てることができない。	
評価項目3	工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルにより解くことができる。			工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルを立てることができる。		工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルを立てることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	工学・生産技術の基礎となる諸問題を数学的に解く方法について学習する。						
授業の進め方・方法	テキストの内容に基づき講義・演習を実施する。グループ学習による自主的な学びを取り入れる。						
注意点	欠課時間数が総授業時間の 1 / 4 を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 1次方程式による数式モデル		1		
		2週	2次方程式による数式モデル		1		
		3週	連立方程式による数式モデル		1		
		4週	2次関数による数式モデル		1		
		5週	三角関数による数式モデル		1		
		6週	指数関数による数式モデル		1		
		7週	ベクトルによる数式モデル		2		
		8週	中間試験		1,2		
	4thQ	9週	試験返却 対数関数による数式モデル		1		
		10週	行列による数式モデル		2		
		11週	微分による数式モデル 1		3		
		12週	微分による数式モデル 2		3		
		13週	積分による数式モデル 1		3		
		14週	積分による数式モデル 2		3		
		15週	微分方程式による数式モデル		3		
		16週	期末試験		1,2,3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日本文化史	
科目基礎情報							
科目番号	600101			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	資料プリント、関係映像など						
担当教員	佐伯 徳哉						
到達目標							
1、伝統的な日本の産業文化の特色を述べるができる。2、石見銀山と類似資産との比較が論理的にできる。3、伝統的な日本の産業文化の価値を近代産業の中でどう活かしているか、考えをまとめ論じることができる。4、東アジア的・世界史的な交流という視点から日本史の動きを説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物などをてがかりに述べるができる。		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物などから読み取ることができない。	
評価項目2		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献をてがかりに複数の事象から述べるができる。		石見銀山と類似遺産に関するエィッ増・画像や文献から情報を読み出せない。	
評価項目3		伝統的な日本の産業文化の価値を近代産業の中でどう活かしているか、基本的な考え方を現場においてどう実践できるか両面からオリジナルな考えを論じることができる。		伝統的な日本の産業文化の価値を近代産業の中でどう活かしているか、基本的な考え方として論じることができる。		伝統的な日本の産業文化の価値を近代産業の中でどう活かしているか論じることができない。	
評価項目4		東アジア的・世界史的な交流と日本史の動きを有機的に関連付けながら文章で表現できる。		東アジア的・世界史駅な交流と、日本史の動きに関する個別知識を述べることができる。		ドづ時台の東アジア史・世界史や日本史の動きを述べられる知識が身につけていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	前近代における日本の産業の特色と歴史的意義を、石見銀山遺跡の世界遺産登録の過程で行われた文献史学・考古学・地理学・科学などの多角的研究と、類似遺産との比較研究をひもときながら考える。						
授業の進め方・方法	講義形式、課題プリントによる自学自習						
注意点	本科で学習した歴史1（世界史）・歴史2（日本史）や地理の内容						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	世界遺産と産業遺産				
		2週	石見銀山遺跡の概要と世界遺産登録へのプロセス				
		3週	石見銀山の通史		東アジア的・世界史的な交流と日本史の動きを有機的に関連付けながら文章で表現できる。		
		4週	石見銀山の日本史上の意義		東アジア的・世界史的な交流と日本史の動きを有機的に関連付けながら文章で表現できる。		
		5週	石見銀山の世界史上の意義		東アジア的・世界史的な交流と日本史の動きを有機的に関連付けながら文章で表現できる。		
		6週	石見銀山遺跡の構成資産とその特徴（1）		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。		
		7週	石見銀山遺跡の構成資産とその特徴（2）		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。		
		8週	石見銀山遺跡の構成資産とその特徴（3）		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。		
	4thQ	9週	類似する世界遺産との比較検討（1）		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		
		10週	類似する世界遺産との比較検討（2）		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		
		11週	類似する世界遺産との比較検討（3）		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		
		12週	比較検討をまとめる（作業）		石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		
		13週	石見銀山の顕著な普遍的価値に関する国際的議論（1）		伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。		

		14週	石見銀山の顕著な普遍的価値に関する国際的議論（2）	伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。石見銀山と類似遺産との比較を、映像・画像や文献を分・関連させながらいくつかの範疇から総合的に文章で表現することができる。
		15週	期末試験	
		16週	日本の前近代の産業文化から何を学びどう活かしようか	伝統的な日本の産業文化の特色を、映像・画像・考古遺物など関連させながら分析し、論理的に文章表現できる。伝統的な日本の産業文化の価値を近代産業の中でどう活かしようか、基本的な考え方を現場においてどう実践できるか両面からオリジナルな考えを論じることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験 80	発表5	相互評価	態度5	ポートフォリオ	その他10	合計	
総合評価割合	80	5	0	5	0	10	100	
基礎的能力	80	5	0	5	0	0	90	
専門的能力	0	0	0	0	0	10	10	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国文学	
科目基礎情報							
科目番号	600102			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	自作プリント						
担当教員	野田 善弘						
到達目標							
1. 文学作品を正しく理解する。 2. 文学作品について解説文を作成することができる。 3. 文学作品を鑑賞し、感想を持ち、それを表現できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文学作品の内容をその背景を含めて正確に理解できる。			文学作品の内容について一定の理解ができる。		文学作品の内容を理解できない。	
評価項目2	文学作品の内容に関して論理的で説得力のある解説文をつくることができる。			文学作品の内容に関して解説文を作ることができる。		文学作品の内容に関する解説文をつくることができない。	
評価項目3	文学作品を鑑賞し、感想を持ち、それを適切な表現で伝えることができる。			文学作品を鑑賞し、感想を持ち、ある程度それを表現できる。		文学作品を鑑賞し、感想を持ち、表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	中国残留日本人の運命を描いた名作、山崎豊子『大地の子』を読み解きながら、その時代について考える。さらに、戦争および日本と中国の関係について描いた他の作品を参考にしつつ、自ら考え表現する力を養う。						
授業の進め方・方法	本科の国語をふまえて戦後文学に特化した講義を行う。関連資料（自作プリント）を用いて、文学が生成される背景等に重点を置く。						
注意点	学習単位を導入するので、レポートの提出は必ず行うこと。日頃から、戦争や日中近代史に関して、新聞や書籍に目を通し、視野を広げてほしい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス／「父二人」		1		
		2週	日中戦争とは何か		1		
		3週	文学作品の中の「日中戦争」		1		
		4週	文学作品の中の「終戦」		1		
		5週	「流刑」／文化大革命について（1）		1		
		6週	「再会」／文化大革命について（2）		1		
		7週	「黒災」／国交回復後の日中関係（1）		1		
		8週	「長城」／国交回復後の日中関係（2）		1		
	2ndQ	9週	「日本」／残留孤児問題（1）		1		
		10週	「兄弟」／残留孤児問題（2）		1		
		11週	「密告」／戦争を考える（1）－司馬遼太郎「この国のかたち」		1		
		12週	「父と子」／戦争を考える（2）－司馬遼太郎「坂の上の雲」		1		
		13週	「冤罪」／戦争を考える（3）－司馬遼太郎「街道を行く 台湾紀行」		1		
		14週	「長江」／戦争を考える（4）－司馬遼太郎「街道を行く 台湾紀行」		1		
		15週	戦後文学の戦争観・意見交換		1,3		
		16週	期末試験・レポート提出・まとめ		2,3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国際文化理解
科目基礎情報						
科目番号	600107		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	エクソフォニー：母語の外へ出る旅、多和田葉子、岩波書店					
担当教員	野田 善弘,木田 綾子					
到達目標						
他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。 他国の文化について、自ら調査し、得られた情報を活用することができる。 様々な方法を用いて、調査内容や自らの意見を明確に伝えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	他国の文化を理解し、尊重することができる		他国の文化を理解することができる		他国の文化を理解することができない	
評価項目2	他国の文化と自国の文化の差異を認め、相対化することができる		他国の文化と自国の文化の差異を認めることができる		他国の文化と自国の文化の差異を認めることができない	
評価項目3	他国の文化について、自ら調査し、情報を活用することができる		他国の文化について、自ら調査することができる		他国の文化について、自ら調査することができない	
学科の到達目標項目との関係						
教養・技術者倫理 (D)						
教育方法等						
概要	国際化する現代社会において、エンジニアを取り巻く環境も、グローバル化を加速させつつある。本科目では、本科における外国語学習および関連科目における学習を基礎として、他国の文化の理解を深めることによって、国際的な視点を獲得できるよう、授業を展開する。					
授業の進め方・方法	教材を読み、それに関する意見を書く。 様々な国の文化についてグループで調べ、発表をする。 台湾の実習生と文化交流をする。					
注意点	国際化社会におけるグローバルな意識と知識の必要性を理解し、自らが留学することや、外国人と共同研究および仕事をする環境、外国人とある一つの文化の中で生活することを意識しながら、積極的に取り組むこと。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		2週	文化、言語、国際社会		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		3週	西洋の文化		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		4週	西洋の文化		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		5週	調べ学習		他国の文化について、自ら調査し、得られた情報を活用することができる。	
		6週	発表		様々な方法を用いて、調査内容や自らの意見を明確に伝えることができる。	
		7週	東洋の文化		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		8週	調べ学習		他国の文化について、自ら調査し、得られた情報を活用することができる。	
	2ndQ	9週	発表、台湾の実習生との交流		様々な方法を用いて、調査内容や自らの意見を明確に伝えることができる。	
		10週	台湾について、台湾の実習生との交流		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		11週	発表、台湾の実習生との交流		様々な方法を用いて、調査内容や自らの意見を明確に伝えることができる。	
		12週	台湾の実習生との交流		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		13週	身近な地域の文化と国際交流		他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。	
		14週	調べ学習		自国の文化について、自ら調査し、得られた情報を活用することができる。	
		15週	発表		様々な方法を用いて、調査内容や自らの意見を明確に伝えることができる。	

		16週	期末試験		他国の文化を理解することができる。 他国の文化との比較を通して自国の文化との差異を認め、自己の文化的背景をも相対化することができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	社会科学概論	
科目基礎情報							
科目番号	600108			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント／伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』ちくま新書, 2005年, 清水幾太郎『本はどう読むか』講談社現代新書, 1972年, 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書, 1979年						
担当教員	未 定						
到達目標							
1. 社会問題を科学的に捉えるための視座を修得できる。 2. 民主主義の理念と制度を理解する。 3. 社会的なものの方を見方をすることができる。 4. 社会の現象が資源配分として捉えることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会問題を科学的に捉えるための視座を理解している			社会問題を科学的に捉えることの重要性を理解している		社会問題を科学的に理解する意義が認識できていない	
評価項目2	民主主義の理念と制度の重要性を理解し説明できる			民主主義の理念を理解し説明できる		民主主義の理念と制度が説明できない	
評価項目3	社会的なものの方の重要性を理解し説明できる			社会的なものの方について自分のことばで説明できる		社会的なものの方を見方を説明できない	
評価項目4	社会現象を資源配分の視点から説明できる			資源配分の方法を説明できる		社会現象と資源配分の関わりが認識できない	
学科の到達目標項目との関係							
教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	社会現象をものごとの繋がりから理解できるように, 社会を科学的に捉える方法を解説する授業である。						
授業の進め方・方法	講義形式を中心とするが, 一部グループ・ディスカッションやディベート形式で進める。						
注意点	出席回数が3/4に満たないと単位の認定ができない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	民主主義という考え方 (1)			2	
		2週	民主主義という考え方 (2)			2	
		3週	民主主義を実践する方法 (1)			2	
		4週	民主主義を実践する方法 (2)			2	
		5週	民主主義と現代 (1)			2	
		6週	民主主義と現代 (2)			2	
		7週	社会学とは何か (1) グループ・ディスカッション			1	
		8週	社会学とは何か (1) 講義			1	
	4thQ	9週	ジェンダーとセクシュアリティ (1) グループ・ディスカッション			3	
		10週	ジェンダーとセクシュアリティ (1) 講義			3	
		11週	科学・技術と社会 (1) グループ・ディスカッション			3	
		12週	科学・技術と社会 (1) 講義			3	
		13週	貨幣ヴェール観の評価			4	
		14週	財政ファイナンスからイデオロギーを考える			1	
		15週	多国籍企業の行動は何を変えてしまうのか			4	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験			グループディスカッションの取組		合計	
総合評価割合	70			30		100	
基礎的能力	70			30		100	
専門的能力	0			0		0	
分野横断的能力	0			0		0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	プログラミング演習	
科目基礎情報							
科目番号	610003			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	三井 正						
到達目標							
1. 変数や標準関数を使った計算ができる。 2. For ループを使った制御構造を作成できる。 3. 場合分けを使った制御構造を作成できる。 4. 配列と For ループを用いた基本的な計算ができる。 5. 関数を作成して利用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	変数や標準関数を使った複雑な計算ができる。		変数や標準関数を使った簡単な計算ができる。		変数や標準関数を使った計算ができない。		
評価項目2	多重の For ループを使った複雑な制御構造を理解して作成できる。		For ループを使った制御構造を作成できる。		For ループを使った制御構造を作成できない。		
評価項目3	場合分けと For ループを同時に使った複雑な制御構造を作成できる。		場合分けを使った制御構造を作成できる。		場合分けを使った制御構造を作成できない。		
評価項目4	配列と For ループを使った複雑な計算ができる。		配列と For ループを使った基本的な計算ができる。		配列と For ループを使った計算ができない。		
評価項目5	関数を利用すべきかどうか判断し、必要な場合に関数を作成して利用できる。		関数を作成して利用できる。		関数を作成できない。		
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	数値計算等へ応用するためのプログラミングの基礎を学習する。						
授業の進め方・方法	配布プリントにそって原理を説明し、Visual Basic for Applications を利用してプログラム作成の演習を行う。ほぼ毎週小テストを実施する。						
注意点	2 年生で数値計算法及び演習Aを履修するためには本科目でプログラミングの基礎を習得しておく必要がある。また、欠課時間数が総授業時間の 1 / 4 を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Visual Basic for Applications について、セルと変数		1		
		2週	標準関数		1		
		3週	For ループ		2		
		4週	総和の計算		2		
		5週	2重の For ループ 1		2		
		6週	2重の For ループ 2		2		
		7週	条件分岐		3		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	試験返却、解説、論理和・論理積、ブロック If 文		3		
		10週	3つ以上の場合分け		3		
		11週	1次元配列		4		
		12週	最大値・最小値		4		
		13週	2次元配列		4		
		14週	関数		5		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却、解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		小テスト		課題		合計
総合評価割合	50		40		10		100
基礎的能力	50		40		10		100
専門的能力	0		0		0		0
分野横断的能力	0		0		0		0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	制御工学	
科目基礎情報							
科目番号		610005		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		資料配布					
担当教員		糸野 紘範					
到達目標							
1.制御システムの基本的な構成が理解できる 2.伝達関数が理解できる 3.古典的なシステム論が理解できる 4.古典的な制御系が設計できる 5.状態空間法が理解できる 6.現代的なシステム論が理解できる 7.状態方程式に基づく制御系が設計できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	制御システムの基本的な構成が説明できる		制御システムの基本的な構成が理解できる		制御システムの基本的な構成が理解できない		
評価項目2	伝達関数が理解できる		伝達関数が概念が理解できる		伝達関数が理解できていない		
評価項目3	古典的なシステム論（周波数応答・安定性・時間応答）が理解できる		古典的なシステム論の基本が理解できる		古典的なシステム論が理解できていない		
評価項目4	古典的な制御系（PID制御）が設計できる		古典的な制御系が理解できている		古典的な制御系が理解できていない		
評価項目5	状態空間法でシステムを表現できる		状態空間法が理解できる		状態空間法が理解できていない		
評価項目6	現代的なシステム論（座標変換・モード分解・可制御・可観測・安定性）が理解できる		現代的なシステム論の基本が理解できる		現代的なシステム論が理解できていない		
評価項目7	状態方程式に基づく制御系（状態フィードバック・極配置法）が設計できる		状態方程式に基づく制御系（状態フィードバック）が理解できている		状態方程式に基づく制御系が理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	自動制御は、現在の社会では欠かすことのできない技術であり、ありとあらゆる分野で使用されている。本講義では自動制御における古典制御理論から、現代制御理論までを学ぶ。機械工学コースの学生にとっては本科科目の振り返りの部分が多いが、環境材料工学コースではより発展的な内容となる。なお、環境材料工学コースは選択科目である。						
授業の進め方・方法	講義形式で行う						
注意点	関連科目：本科　メカトロニクス応用，機械制御，計測工学。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	制御システムの基本的な構成		1		
		2週	伝達関数		2		
		3週	システムの周波数応答		3		
		4週	システムの安定性		3		
		5週	システムの時間応答		3		
		6週	制御システムの古典的設計手法		4		
		7週	PID制御		4		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	状態空間法		5		
		10週	状態方程式と伝達関数の相互変換		5		
		11週	システムの座標変換		6		
		12週	モード分解		6		
		13週	可制御性・可観測性		6		
		14週	状態方程式とリアプノフ安定		6		
		15週	状態フィードバックと極配置法		7		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生産技術英語演習
科目基礎情報						
科目番号	610011			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	配布プリント／高校すいすい暗記基本英文法			高校英語研究会 編	(受験研究社) などの英文法書	
担当教員	次田 泰裕					
到達目標						
1.英語基本5文型の例文が提示できる事。 2.英文の文型が識別できる事。 3.自動詞と他動詞の区別, 動詞の過去形と過去分詞形の区別, 形容詞と副詞の区別, 目的語と補語の区別ができる事。 4.目的語を含む形の文について, 能動形―受動形の変換ができる事。 5.関係代名詞の先行詞と格が判る事。関係代名詞の文を独立単文に分解する事, 単文を関係代名詞で結ぶ事ができる事。 6.関係代名詞の代わりに, 不定詞, 現在分詞, 過去分詞を使って書き換えができる事。 7.名詞節を導く接続詞“that”が使いこなせる事。関係代名詞の“that”と区別できる事。 8.文中の代名詞が何を指すか, 見つけられる事。 9.辞書が使いこなせる事。文中の言葉の用法が, 辞書に示されているどの用法に相当するか, 例文なども参照して, 識別できる事。 10.長文を構成単文に分解できる事。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1.英語基本5文型の例文が提示できる事。	英語基本5文型の例文が具体的に提示できる。		英語基本5文型が抽象的に提示できる。		英語基本5文型の例文が提示できない。	
2.英文の文型が識別できる事。	英文の文型が全て識別できる。		英文の文型がある程度識別できる。		英文の文型が識別できない。	
3.自動詞と他動詞の区別, 動詞の過去形と過去分詞形の区別, 形容詞と副詞の区別, 目的語と補語の区別ができる事。	自動詞と他動詞の区別, 動詞の過去形と過去分詞形の区別, 形容詞と副詞の区別, 目的語と補語の区別が全てできる。		自動詞と他動詞の区別, 動詞の過去形と過去分詞形の区別, 形容詞と副詞の区別, 目的語と補語の区別がある程度できる。		自動詞と他動詞の区別, 動詞の過去形と過去分詞形の区別, 形容詞と副詞の区別, 目的語と補語の区別ができない。	
4.目的語を含む形の文について, 能動形―受動形の変換ができる事。	目的語を含む形の文について, 能動形―受動形の変換が具体的にできる。		目的語を含む形の文について, 能動形―受動形の変換がある程度できる。		目的語を含む形の文について, 能動形―受動形の変換ができない。	
5.関係代名詞の先行詞と格が判る事。関係代名詞の文を独立単文に分解する事, 単文を関係代名詞で結ぶ事ができる事。	関係代名詞の先行詞と格が全て判る。また, 関係代名詞の文を独立単文に分解する事, 単文を関係代名詞で結ぶ事が具体的にできる。		関係代名詞の先行詞と格がある程度判る。また, 関係代名詞の文を独立単文に分解する事, 単文を関係代名詞で結ぶ事がある位程度できる。		関係代名詞の先行詞と格が判らない。また, 関係代名詞の文を独立単文に分解する事, 単文を関係代名詞で結ぶ事ができない。	
6.関係代名詞の代わりに, 不定詞, 現在分詞, 過去分詞を使って書き換えができる事。	関係代名詞の代わりに, 不定詞, 現在分詞, 過去分詞を使って具体的に書き換えができる。		関係代名詞の代わりに, 不定詞, 現在分詞, 過去分詞を使ってある程度書き換えができる。		関係代名詞の代わりに, 不定詞, 現在分詞, 過去分詞を使って書き換えができない。	
7.名詞節を導く接続詞“that”が使いこなせる事。関係代名詞の“that”と区別できる事。	名詞節を導く接続詞“that”が具体的に使いこなせる。また, 関係代名詞の“that”と明確に区別できる。		名詞節を導く接続詞“that”がある程度使いこなせる。また, 関係代名詞の“that”とある程度区別できる。		名詞節を導く接続詞“that”が使いこなせない。また, 関係代名詞の“that”と区別できない。	
8.文中の代名詞が何を指すか, 見つけられる事。	文中の代名詞が何を指すか, 具体的に見つけられる。		文中の代名詞が何を指すか, ある程度見つけられる。		文中の代名詞が何を指すか, 見つけられない。	
9.辞書が使いこなせる事。文中の言葉の用法が, 辞書に示されているどの用法に相当するか, 例文なども参照して, 識別できる事。	辞書が使いこなせる。また, 文中の言葉の用法が, 辞書に示されているどの用法に相当するか, 例文なども参照して具体的に識別できる。		辞書がある程度使いこなせる。また, 文中の言葉の用法が, 辞書に示されているどの用法に相当するか, 例文なども参照して, ある程度識別できる。		辞書が使いこなせない。文中の言葉の用法が, 辞書に示されているどの用法に相当するか, 例文なども参照して, 識別できない。	
10.長文を構成単文に分解できる事。	長文を構成単文に具体的に分解できる。		長文を構成単文にある程度分解できる。		長文を構成単文に分解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	技術英文を正確に読みこなして、専門書や論文の英語の内容が正確に把握できるようになることを目標にして、必要な英文法の知識とその応用法の基本を身につける。					
授業の進め方・方法	生産技術の基本となる化学・製錬熱力学 (Chemical and metallurgical thermodynamics) における英語表現やその翻訳などの演習をする。特に、生産技術では、定量化の表現とその実践が重要であるので、演習により具体的に体得する。 基礎と応用に関係する課題 (Problem) を選択し、何を要求されているかをよく噛み砕いて、与件 (given condition) をハッキリさせ、必要な法則を選択し、あえて、鉛筆 (あるいはペン) と紙を用いて、実際に計算することに重点を置く。そして、結論を正確にかつ簡潔に表現することの訓練を行う。最終的に、モデルの作成 (modelling) と種々の模擬試験 (simulation) も行う。 Out of mind, out of sight (心ここにあらざれば、見れど見えず) やToday's knowledge is soon replaced tomorrow'sのような格言を心に留め、最新の情報をたえずwatching (あるいはobserving) する習慣も身に着けたい。					
注意点	これまでに学んだ基礎的な英語科目の内容に加えて、生産技術の専門的な考え方をベースに展開される科目である。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	知っている単語から成る英文を個々に訳させ、提出された何通りかの訳を比較して、全員が同じ訳をするべきだと認識させ、この科目の必要性和授業の進め方を説明する。	1		

		2週	文の要素と5文型。目的語と補語。文の要素と修飾語の違い。句と節。長文の文型を把握するための基本練習。	2
		3週	品詞。自動詞と他動詞。動詞の活用。名詞の各変化。形容詞と副詞。辞書の使い方。 英文読解。	3、9
		4週	技術文の特徴である、無生物主語に関する受身文の解説（O文、O+O文、O+C文の能動―受動変換） 英文読解。	4
		5週	関係代名詞による文の結合、関係代名詞で結ばれた文の単文への分解。分詞で修飾された技術英文の読解。 英文読解。	5,8
		6週	現在分詞、過去分詞、不定詞で修飾された文について、その動詞を使って単文に分ける。英文読解。	6
		7週	名詞節を導く接続詞that（that節）の働き。仮主語itの働き。英文読解。	7
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却、復習。	
		10週	太陽エネルギー利用に関する英文の読解	
		11週	力学に関する技術英文の読解	
		12週	冷蔵庫に関する技術英文の読解	
		13週	各自の特別研究テーマに関する論文の全訳提出。その論文の一部の翻訳試験。	
		14週	光に関する技術英文の読解	
		15週	期末試験	
		16週	試験返却、復習	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	論文全訳提出と 関連試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料機能制御実習
科目基礎情報						
科目番号	610017			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1	
開設期	通年			週時間数	3	
教科書/教材	独自の指導書を使用する					
担当教員	日野 孝紀,平澤 英之					
到達目標						
1. 材料機能の発現メカニズムが理解できる。 2. 所定の機能を有する材料の設計ができる。 3. 設計通りに材料を作製できる。 4. 材料機能評価ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	材料機能の発現メカニズムを具体的な材料を例に挙げて説明でき、理解できる。		材料機能の発現メカニズムが理解できる。		材料機能の発現メカニズムが理解できない。	
評価項目2	所定の機能を具体的に説明でき、その機能を有する材料の設計ができる。		所定の機能を有する材料の設計ができる。		所定の機能を有する材料の設計ができない。	
評価項目3	設計通りの材料を選択でき、それらの材料の基本的性質を説明できると共に、それらの作製ができる。		設計通りに材料を作製できる。		設計通りに材料を作製できない。	
評価項目4	材料機能評価についてどのような測定機器が必要か説明でき、その評価ができる。		材料機能評価ができる		材料機能評価ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
デザイン能力 (C)						
教育方法等						
概要	代表的な合金の作製法である溶解法と粉末冶金法を用いて材料における機能性の発現機構や開発の手法について理解する。また、溶融接合法の接合プロセスの物理的現象および溶融接合部の材料挙動について理解する。					
授業の進め方・方法	材料のもつ機能には様々な因子が複雑に関係しており、その特性を制御するのは非常に難しい。材料の作製法・機能発現に至る手法など、自身の力で見出せるよう思考し、実際に材料を作製することで、理論的な材料設計能力と問題解決能力の向上を期待する。					
注意点	磁性の発現機構や磁性材料に関する分野および溶融加工分野について、事前学習を行うことが望ましい。自己学習では、材料機能を向上させる手法について考えるため、合金および磁性材料の諸特性および溶融・凝固現象について学ぶ必要がある。また、本科目による材料設計・課題解決能力の涵養は『特別研究』の科目に関連する。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス：強磁性体について		1	
		2週	原子の磁気モーメントと磁化過程		1	
		3週	フェライト磁石の作製		2. 3	
		4週	物性評価と残留磁化の測定		4	
		5週	磁性の向上に関する方法の検討		1. 4	
		6週	フェライトを基本とする強磁性体の設計		1. 2	
		7週	総括（中間発表）		1. 2. 3. 4	
		8週	高保磁力を有するフェライト磁石の作製		1. 2. 3	
	2ndQ	9週	粉末試料の熱分析		4	
		10週	組織観察と機械的性質の評価		4	
		11週	粉末XRD回折による構造評価		4	
		12週	結晶状態の解析および粒子性状評価		4	
		13週	着磁および残留磁束密度測定装置の検討		4	
		14週	フェライト磁石のプレス加工と残留磁化の測定		4	
		15週	残留磁化の測定及び考察		4	
		16週	プレゼン		4	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス：溶融加工について		1. 2. 3. 4	
		2週	溶融接合法の種類		1. 2	
		3週	溶接装置、開先加工		3	
		4週	シールドガス、安全管理		1. 2	
		5週	溶接冶金		4	
		6週	溶接欠陥と検査法		4	
		7週	溶融現象の観察 1		1	
		8週	溶融現象の観察 2		1	
	4thQ	9週	溶融現象の可視化		2	
		10週	溶融部の数値解析 1		3	

	11週	溶融部の数値解析 2	3
	12週	観察用試料の準備	4
	13週	組織観察 1	4
	14週	組織観察 2	4
	15週	溶接部の機械的性質評価	4
	16週	総括・プレゼン	1. 2. 3. 4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	材料設計能力	発表	成果物（提出物）	ノート	合計
総合評価割合	25	25	20	30	100
専門的能力	25	25	20	30	100

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料機能設計学	
科目基礎情報							
科目番号	610018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	マテリアルデザイン (材料工学編) 山本良一 (編集), 先端材料シリーズ 材料の設計 日本材料科学会編,機能材料入門 (上・下) 本間基文 他編						
担当教員	高見 静香,日野 孝紀,朝日 太郎						
到達目標							
1.材料システムに望みの機能と性能を発現させるための基本的内容が理解できること。 2.設計のための材料機能の基礎知識が習得できること。 3.材料の特性を計測・分析するためのいくつかの方法や機器について、その原理を理解できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	材料システムに望みの機能と性能を発現させるための基本的内容が、具体的な材料を例に挙げ理解でき、説明できる			材料システムに望みの機能と性能を発現させるための基本的内容が理解できる		材料システムに望みの機能と性能を発現させるための基本的内容が理解できない	
評価項目2	設計のための材料機能の基礎知識の内容を具体的に説明でき、それらの内容を習得できる			設計のための材料機能の基礎知識が習得できる		設計のための材料機能の基礎知識が習得できない	
評価項目3	材料の特性を計測・分析するためのいくつかの方法や機器について、その原理・測定方法が理解でき、得られた測定結果の基本的な解析方法について説明できる			材料の特性を計測・分析するためのいくつかの方法や機器について、その原理を理解できる		材料の特性を計測・分析するための方法や機器について、その原理が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	現代社会に用いられる種々の材料を設計するためには、それらの機能材料と鋼構造材料に関連して、材料の基本的性質と種々の環境下における挙動と機能を知る必要がある。本講義では材料の電気的・熱的・光学的性質等やエネルギー変換機能の基礎について学び、さらに環境に依存する材料の挙動と機能及びそれらを調べる計測・分析機器の基本ならびに鋼構造の溶接施工について学ぶ。機械工学コースは必修科目ではない。						
授業の進め方・方法	「授業内容」に対応する配布プリントや教科書を良く読んでおくこと。毎回の授業時にはノートを準備して、各自自主的に講義内容や自分で学習した内容をまとめてほしい。一般的な工業材料や先端材料の基礎をしっかりと理解した上で、材料の組織制御と機能性および材料物性評価法について深く勉強してほしい。						
注意点	「授業内容」に対応する配布プリントや教科書を良く読んでおくこと。毎回の授業時にはノートを準備して、各自自主的に講義内容や自分で学習した内容をまとめてほしい。一般的な工業材料や先端材料の基礎をしっかりと理解した上で、材料の組織制御と機能性および材料物性評価法について深く勉強してほしい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電気的性質 1		1, 2		
		2週	電気的性質 2		1, 2		
		3週	光学的性質1		1, 2		
		4週	光学的性質 2		3		
		5週	固体材料のキャラクタリゼーション 1		3		
		6週	固体材料のキャラクタリゼーション 2		3		
		7週	化学的特性 1		1, 2		
		8週	化学的特性 2		1, 2		
	2ndQ	9週	光学的特性 1		1, 2		
		10週	光学的特性2		1, 2		
		11週	有機材料の機器分析		3		
		12週	溶接設計 1		1, 2		
		13週	溶接設計 2		1, 2		
		14週	鋼材と溶接性 1		1, 2		
		15週	鋼材と溶接性 2		1, 2		
		16週	継手の強度と検査		3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		課題		レポート		合計
総合評価割合	80		10		10		100
基礎的能力	0		10		10		20
専門的能力	80		0		0		80
分野横断的能力	0		0		0		0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生産工学ゼミナールⅡ 1	
科目基礎情報							
科目番号	610022			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	技術士第一次試験試験問題集（平成10～13年度合本）（株）通商産業研究社、金属材料基礎学、尾崎良平他4名、改訂 機械工学大意、菅原官雄						
担当教員	高見 静香,真中 俊明						
到達目標							
1. 与えられた課題について情報を収集・編集し、要約したレポートを作成できること 2. 化学および環境分野における技術士資格試験問題相当を解答できること 3. 金属および応用理学分野における技術士資格試験問題相当を解答できること 4. 各テーマについて簡潔にまとめ、第三者に分かるようにプレゼンテーションができること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	与えられた課題について、文献等によって最新の情報を収集・編集し、要点を纏め、ある程度、自分の所見を説明できる			与えられた課題について情報を収集・編集し、要点を纏められること		与えられた課題について情報を収集・編集し、要点を纏めることができない	
評価項目2	化学および環境分野における技術士資格試験問題相当の内容を理解できる。			化学および環境分野における技術士資格試験問題相当の内容を例をあげて説明できる。		化学および環境分野における技術士資格試験問題相当の内容を知らない。	
評価項目 3	金属および応用理学分野における技術士資格試験問題相当の内容を理解できる。			金属および応用理学分野における技術士資格試験問題相当の内容を例をあげて説明できる。		金属および応用理学分野における技術士資格試験問題相当の内容を知らない。	
評価項目4	各テーマについて簡潔にまとめ、明解な図や写真等を作成し、第三者に分かるようなプレゼンテーションができる。			各テーマについて簡潔にまとめ、第三者に分かるようにプレゼンテーションができること。		各テーマについて簡潔にまとめ、第三者に分かるようにプレゼンテーションができない。	
学科の到達目標項目との関係							
デザイン能力 (C) コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	【前期】 化学および環境分野における技術士資格試験問題相当の問題を想定した課題を毎回与え、書籍やインターネットを利用してこれを解くための情報を収集・編集し、簡潔に要約できる能力を養う。要点を簡潔にまとめ、第三者に分かるようにプレゼンテーションができる能力を養う。 【後期】 前期に引き続き、金属および応用理学分野における技術士資格試験問題担当の問題を想定し、 た課題に取り組むことで生産工学に必要な知識を修得する。レポート作成に伴う情報収集・編集・要約能力に磨きをかけ、生産工学ゼミナールⅡにつなげる。						
授業の進め方・方法	材料工学における広範な基礎と応用知識を習得し、それらの分野の実務的な「問題解決能力」を養って下さい。また、プレゼンテーションにより、より一層、「まとめる力」と「表現力」も身につけるよう心がけて下さい。						
注意点	材料工学における広範な基礎と応用知識を習得し、それらの分野の実務的な「問題解決能力」を養って下さい。また、プレゼンテーションにより、より一層、「まとめる力」と「表現力」も身につけるよう心がけて下さい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	科学研究のトピックス			1,2	
		3週	有機材料（1）			1,2	
		4週	有機材料（2）			1,2	
		5週	有機材料（3）			1,2	
		6週	燃料及び潤滑油			1,2	
		7週	高分子製品（1）			1,2	
		8週	第1週～7週に於けるプレゼンテーション			1,2,4	
	2ndQ	9週	高分子製品（2）			1,2	
		10週	化学装置及び設備			1,2	
		11週	環境保全計画、環境測定、自然環境保全			1,2	
		12週	セラミックス及び無機化学製品（1）			1,2	
		13週	セラミックス及び無機化学製品（2）			1,2	
		14週	生産工学の基礎（1）			1,2	
		15週	生産工学の基礎（1）			1,2	
		16週	第9週～15週に於けるプレゼンテーション			1,2,4	
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス				
		2週	鉄鋼および非鉄生産システム(1)			1,3	
		3週	鉄鋼および非鉄生産システム(2)			1,3	
		4週	鉄鋼および非鉄生産システム(3)			1,3	
		5週	金属材料(1)			1,3	
		6週	金属材料(2)			1,3	
		7週	金属材料(3)			1,3	

		8週	第1週～7週に関するプレゼンテーション	1,3,4
	4thQ	9週	表面技術	1,3
		10週	金属加工（1）	1,3
		11週	金属加工（2）	1,3
		12週	物理および化学	1,3
		13週	最近の話題	1,3
		14週	生産工学の基礎（3）	1,3
		15週	生産工学の基礎（4）	1,3
		16週	第9週～15週に関するプレゼンテーション	1,3,4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題	発表	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		20	20	40	
専門的能力		30	30	60	
分野横断的能力		0	0	0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	デジタルエンジニアリング	
科目基礎情報							
科目番号	610027			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	コンピュータによる熱移動と流れの数値解析、ANSYS（F L U E N T）の理論編や例題集						
担当教員	谷脇 充浩						
到達目標							
1.ナビエストークス方程式が理解できる 2.流体解析の基礎を理解し、CAEを用いて解析結果が導出できる 3.与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	流体力学の基礎方程式を展開して、無次元化し、渦度流れ関数を用いて簡単な流れ場の計算ができる			流体力学の基礎方程式を展開して、無次元化できる		流体力学の基礎方程式を展開できない	
評価項目2	汎用の流体解析ソフトを使用し、上記と同じ計算ができ、さらにディフューザの流れ場計算ができる			汎用の流体解析ソフトを使用し、上記と同じ計算ができる		汎用の流体解析ソフトが使用できない	
評価項目3	高機能な汎用の熱流体解析ソフトを使用し、複雑な計算ができる			高機能な汎用の熱流体解析ソフトを使用できる		高機能な汎用の熱流体解析ソフトを使用できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、コンピュータを用いたシミュレーションの「予測」としての側面を学ぶため、CADデータに基づいた流体解析に必用な知識と手順を理解する。さらに、与えられた課題に適したモデルを構築し、そのモデルに基づいた数値実験を行い、導出された結果について議論する。 環境材料工学コースは必修科目ではない						
授業の進め方・方法	事前学習：「数値計算法」の復習をしておくこと。 関連科目：「材料強度評価法」「伝熱工学特論」「流体力学特論」 履修上の注意： 事例をととして、流れの理論やC A Dデータの利用を理解する基礎編と、C A Eを用いた応用編を学ぶことができます。エンジニアや研究者として、流れの支配方程式を理解する能力を養い、実際に流体解析を仕事に役立ててもらいたいと思います						
注意点	事前学習：「数値計算法」の復習をしておくこと。 関連科目：「材料強度評価法」「伝熱工学特論」「流体力学特論」 履修上の注意： 事例をととして、流れの理論やC A Dデータの利用を理解する基礎編と、C A Eを用いた応用編を学ぶことができます。エンジニアや研究者として、流れの支配方程式を理解する能力を養い、実際に流体解析を仕事に役立ててもらいたいと思います。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		ナビエストークス方程式が理解できる		
		2週	ナビエストークス方程式の基礎（1）		ナビエストークス方程式が理解できる		
		3週	ナビエストークス方程式の基礎（2）		ナビエストークス方程式が理解できる		
		4週	ナビエストークス方程式の離散化方法（1）		ナビエストークス方程式が理解できる		
		5週	ナビエストークス方程式の離散化方法（2）		ナビエストークス方程式が理解できる		
		6週	EXCELによる簡単な流れ場の計算演習（流れ渦関数による）		ナビエストークス方程式が理解できる		
		7週	ANSYSによるキャビティー流れの計算（1）EXCEL結果との比較		流体解析の基礎を理解し、CAEを用いて解析結果が導出できる		
		8週	ANSYSによるキャビティー流れの計算（2）		流体解析の基礎を理解し、CAEを用いて解析結果が導出できる		
	4thQ	9週	ANSYSによるディフューザーの形状計算（1）拡大角度変更による影響把握		流体解析の基礎を理解し、CAEを用いて解析結果が導出できる		
		10週	ANSYSによるディフューザーの形状計算（2）		流体解析の基礎を理解し、CAEを用いて解析結果が導出できる		
		11週	FLUENTの使用方法的実習（1）		与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる		
		12週	FLUENTの使用方法的実習（2）		与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる		
		13週	FLUENTによる最終課題の選択と計算（1）		与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる		
		14週	FLUENTによる最終課題の選択と計算（2）		与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる		
		15週	FLUENTによる最終課題の選択と計算（3）		与えられた課題に対して、CAD,CAEを駆使して、解を得ることができる		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
				課題レポート		合計	

総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	特別研究 1
科目基礎情報						
科目番号	610031		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材						
担当教員	新田 敦己,志賀 信哉,松英 達也,日野 孝紀,高見 静香,松原 靖廣,朝日 太郎,平澤 英之,當代 光陽,真中 俊明					
到達目標						
1. 研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できること。 2. 情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できること。 3. 第三者を納得させる解の導出ができること。 4. 報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	研究目的を、社会的背景や既往の研究と具体的に関連づけて理解できる。		研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できる。		研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できない。	
評価項目2	情報を収集・分析・編集し、問題の本質が具体的に理解できる。		情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できる。		情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できない。	
評価項目3	第三者を納得させる解の導出が充分にできる。		第三者を納得させる解の導出ができる。		第三者を納得させる解の導出ができない。	
評価項目4	報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述が充分にできる。		報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができる。		報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
デザイン能力 (C) コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	研究の遂行を通して、生産工学に関する高度な専門知識と実験技術、自主的・計画的に研究を推進できる能力の育成を目的とする。また、報告書作成や研究発表などを通して、文章表現能力とプレゼンテーション能力を修得させる。					
授業の進め方・方法	本科での授業内容および卒業研究を通して学習した内容の復習を行うこと。関連する科目は本科で学んだ全科目とする。					
注意点	特別研究2 につながる科目である。各自が1 つのテーマに取り組むことになるので、しっかりとした計画の下に自主的に研究を遂行してもらいたい。また、研究計画書および報告書作成や学会発表等を通して文章表現能力およびプレゼンテーション能力の向上も心がけてほしい。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		2週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		3週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		4週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		5週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		6週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		7週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		8週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
	2ndQ	9週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		10週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		11週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		12週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		13週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		14週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		15週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		16週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
後期	3rdQ	1週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		2週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		3週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		4週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		5週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		6週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		7週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		8週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
	4thQ	9週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		10週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		11週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		12週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		13週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	

		14週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4		
		15週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4		
		16週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		計画立案・遂行能力		報告書	合計	
総合評価割合		50		50	100	
基礎的能力		0		0	0	
専門的能力		0		0	0	
分野横断的能力		50		50	100	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	科学技術表現演習	
科目基礎情報							
科目番号	610033			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	自作のプリントなど						
担当教員	平澤 英之						
到達目標							
1. 論旨をもった文章表現ができる 2. 明快な文章表現方法を理解し、記述できる 3. 論理的で正確な文章を構成することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	模範とした文章例を挙げて、論旨をもった文章表現ができる			論旨をもった文章表現ができる		論旨をもった文章表現ができない	
評価項目2	明快な文章表現方法を理解し、具体例を挙げて記述できる			明快な文章表現方法を理解し、記述できる		明快な文章表現方法を理解し、記述できない	
評価項目3	論理的で正確な文章を構成し、報告書等を作成することができる			論理的で正確な文章を構成することができる		論理的で正確な文章を構成することができない	
学科の到達目標項目との関係							
コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	本科科目「卒業研究」で提出されたその報告書をもう一度、推敲しよう。本科目は課題についての論述であり、継続した日々の文章を読む・書く行為が大切である。従って、国語4などの一般科目の復習も必要である。						
授業の進め方・方法	履修上の注意：「書く能力」の向上には、その時間を意識的に増やすと共に、書くための学習が不可欠だと考える。また、「考えること」とは、書く行動を伴うことで、深く多方面から考えることができる。そこで、本授業では、講義時間内および自宅において自らの手を使って(自筆で)書くということを行う。 さらに、書くべき内容を理解し、纏めていないと、その内容を有効に表現したプレゼンテーションが出来ない。従って、与えられた課題について考えて、理解し、纏めて書くという一連の活動のトレーニングを繰り返し行おう。実験や研究の報告書を書くことは、専攻科の学習においても、また、将来、専門的な仕事に就いてからも、極めて必要なものである。						
注意点	本科科目「卒業研究」の報告書を再度、推敲しよう。本科目は課題についての論述であり、継続した日々の文章を読む・書く行為が大切である。従って、国語 1～4などの一般科目の復習も必要である。 レポート(提出物) 100%。なお、授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			1	
		2週	論文とは何か 1			1	
		3週	論文とは何か 2			1	
		4週	論文の構成 1			1	
		5週	論文の構成 2			1	
		6週	論文の構成 3			1	
		7週	日本語の作文技術 1			1. 2	
		8週	日本語の作文技術 2			1. 2	
	2ndQ	9週	日本語の作文技術 3			1. 2	
		10週	日本語の作文技術 4			1. 2	
		11週	日本語の作文技術 5			1. 2	
		12週	推敲 1			1. 2. 3	
		13週	推敲 2			1. 2. 3	
		14週	推敲 3			1. 2. 3	
		15週	推敲 4			1. 2. 3	
		16週	発表の方法と心得 1			1. 2. 3	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		提出物			合計		
総合評価割合		100			100		
文章能力		100			100		

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	起業工学
科目基礎情報						
科目番号	610103			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	1	
教科書/教材	配布プリント／事業性評価融資 中村中著（ビジネス教育出版社）、ビジネス・フレームワーク 堀公俊著（日本経済新聞出版社）、イノベーション政策の科学 山口栄一編著（東京大学出版会）					
担当教員	眞鍋 正臣					
到達目標						
1. 世界・日本・地域の経済事情と起業環境の基礎的な知識が理解できる。 2. 企業経営の基礎と資金調達およびベンチャー企業の特徴を理解できる。 3. イノベーション経営の特徴を理解できる。 4. MOT(技術経営)およびPEST分析の特徴を理解できる。 5. 起業実践事例について学び、起業の意義を理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界・日本・地域の経済事情と起業環境の基礎的な知識を詳しく説明できる。		世界・日本・地域の経済事情と起業環境の基礎的な知識を説明できる。		世界・日本・地域の経済事情と起業環境の基礎的な知識を説明できない。	
評価項目2	企業経営の基礎と資金調達およびベンチャー企業の特徴を詳しく説明できる。		企業経営の基礎と資金調達およびベンチャー企業の特徴を説明できる。		企業経営の基礎と資金調達およびベンチャー企業の特徴を説明できない。	
評価項目3	イノベーション経営の特徴を詳しく説明できる。		イノベーション経営の特徴を説明できる。		イノベーション経営の特徴を説明できない。	
評価項目4	MOT(技術経営)およびPEST分析の特徴を詳しく説明できる。		MOT(技術経営)およびPEST分析の特徴を説明できる。		MOT(技術経営)およびPEST分析の特徴を説明できない。	
評価項目5	起業実践事例について学び、起業の意義を詳しく説明できる。		起業実践事例について学び、起業の意義を説明できる。		起業実践事例について学び、起業の意義を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教養・技術者倫理 (D)						
教育方法等						
概要	世界・日本・地域の経済事情と起業環境を踏まえて、実際の起業を考える場合に役立つベンチャー企業、イノベーション経営、MOT(技術経営)、資金調達、起業実践事例について学ぶことにより、起業意欲を喚起したい。					
授業の進め方・方法	集中講義として開講する。なお、授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。					
注意点	本科目は研究開発型企業経営の基本と実践について学ぶ特色ある科目である。積極的に受講することを望む。本科目は、本科開講の経営工学および専攻科開講のベンチャービジネス概論、品質・安全管理と関連する。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	世界・日本・地域の経済事情と起業環境について	1		
		2週	企業経営の基礎（財務・会計の側面）	2		
		3週	企業経営の基礎（販売・原価計算の側面）	2		
		4週	ベンチャー企業の経営および利益の源泉	2		
		5週	イノベーション経営について	3		
		6週	MOT（技術経営）について	4		
		7週	PEST分析	4		
		8週	起業提案事例発表	5		
	4thQ	9週	討論とまとめ	1,2,3,4,5		
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合						
		レポート			合計	
総合評価割合		100			100	
基礎的能力		0			0	
専門的能力		100			100	
分野横断的能力		0			0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	ベンチャービジネス概論	
科目基礎情報							
科目番号		610104		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年		専1	
開設期		後期		週時間数		1	
教科書/教材		配布プリント					
担当教員		眞鍋 正臣					
到達目標							
1. 創業の社会的意義を知ること。 2. ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を知ること。 3. 創業に対する金融支援の重要性を知ること。 4. 開発型企業における特許の重要性を知ること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	創業の社会的意義を詳しく説明できる		創業の社会的意義を説明できる		創業の社会的意義を説明できない。		
評価項目2	ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を詳しく説明できる。		ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を説明できる。		ビジネスプランの必要性を理解できず、その基本的要素を説明できない。		
評価項目3	創業に対する金融支援の重要性を詳しく説明できる。		創業に対する金融支援の重要性を説明できる。		創業に対する金融支援の重要性を説明できない。		
評価項目4	開発型企業における特許の重要性を詳しく説明できる。		開発型企業における特許の重要性を説明できる。		開発型企業における特許の重要性を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	常に技術革新を目指し経営戦略を立てている企業家による新技術の開発および製品化への実例や、高専OBの起業家による身近でチャレンジ精神の旺盛な方達のレクチャーを聞いて、ベンチャーマインドを養成する。また、専攻科修了後、起業を考えたときに役立つよう特許や創業支援などの制度について理解する。						
授業の進め方・方法	毎回、講師が交代するオムニバス形式で集中講義として実施する。なお、授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
注意点	本科目は、本科開講の経営工学および専攻科開講の起業工学、品質・安全管理と関連する。ベンチャーの意義を知り、先輩創業者の体験を参考にして、ベンチャーマインドを養ってほしい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーションーベンチャーとは何かー		1		
		2週	ベンチャービジネス、起業家、企業とは何か		1,2		
		3週	ベンチャービジネスの現状と将来展望		1,2		
		4週	愛媛県東部地域の新産業創造について 現状と課題		1,2		
		5週	ベンチャービジネスと金融		3		
		6週	技術の資産化について ～企業における特許～		4		
		7週	先輩創業者の体験発表1:「私の創業体験」		1,2,3,4		
		8週	先輩創業者の体験発表2:「先輩創業者から後輩へのメッセージ」		1,2,3,4		
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		レポート			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		0			0		
専門的能力		100			100		
分野横断的能力		0			0		

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料強度物性	
科目基礎情報							
科目番号	610106			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	日野 孝紀						
到達目標							
1結晶の理想強度について理解し、結晶の塑性変形についての概略が説明できること。 2格子欠陥と関連する原子の拡散法則について説明できること。 3刃状転位とらせん転位の構造について説明できること。 4金属材料の強化機構について説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基礎的な金属材料の力学的性質について算出できる。			塑性変形についての概略が説明できる。		結晶の理想強度および塑性変形について説明できない。	
評価項目2	原子の拡散法則について理解し、固体中の拡散についての計算ができる。			固体中の原子の拡散について説明できる。		固体中の原子の拡散について説明でない。	
評価項目3	転位の運動について説明でき、塑性変形との関係を導出できる。			転位の運動について説明できる。		転位と塑性変形の関係を説明できない。	
評価項目4	金属材料の強化機構と転位の関係について説明できること。			金属材料の強化方法について説明できる。		金属材料の強化方法について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	材料の機械的性質は原子の結合と結晶の不完全性（格子欠陥）を考慮して初めて理解される。そこで、本講義では原子の構造と結合力、またそれを切り離すための理想強度および結晶の塑性変形について解説する。また、点欠陥、転位等の基本的な格子欠陥およびそれらの欠陥と関連する材料中における原子の拡散について解説する。次に、固溶強化、加工硬化、微粒強化等、材料の強化機構について講述することにより、材料強度を原子論的立場から理解させることを目標とする。						
授業の進め方・方法	授業は金属材料科学関連の復習や演習課題を行いながら、板書を中心に授業を進める。						
注意点	授業理解のために金属材料学、材料強度学、材料物性学について復習し、課題を次回の講義までに解決しておくこと。本講義の内容は材料強度学、材料物性学、材料組織学と連携しており、機能性材料学 1、2 のための基礎となる。問題演習を行うので、電卓やグラフ用紙を持参のこと。レポート課題の解答には、参考書やWeb 等から得た情報を丸写しすることなく、自分の言葉で書き文章力も養って欲しい。また、引用先は明確に示すこと。なお、授業の欠席回数が 1/4 を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	固体の性質と構造			1	
		2週	材料の力学的性質（1）			1	
		3週	材料の力学的性質（2）			1	
		4週	結晶欠陥の種類と性質			1, 2	
		5週	結晶中の点欠陥			1, 2	
		6週	点欠陥と拡散			1, 2	
		7週	理想結晶の強度			1, 2	
		8週	転位の種類と性質			1	
	2ndQ	9週	塑性変形と転位			3	
		10週	転位の運動			3	
		11週	転位の増殖			1, 3	
		12週	応力下での転位			1, 3	
		13週	金属の強化機構（1）			1, 3	
		14週	金属の強化機構（2）			1, 2, 4	
		15週	定期試験			1, 3, 4	
		16週	試験返却、復習				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験			課題		合計	
総合評価割合	80			20		100	
基礎的能力	0			20		20	
専門的能力	0			0		0	
分野横断的能力	80			0		80	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	振動工学	
科目基礎情報							
科目番号	610108			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	振動工学入門（改訂版） 山田伸志 監修（パワー社）						
担当教員	玉男木 隆之						
到達目標							
1. 構造物の自由振動や強制振動を理解する。 2. 振動対策の基本的な考え方を理解する。 3. 振動に関する英語の専門用語を知る。 4. 自分で調査したことを相手に上手く説明できるようにする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自由振動、強制振動について、モデル化を行い、適切に運動方程式導き、微分方程式を解くことができる。また、微分方程式の解から振動の様子を説明できる。			自由振動、強制振動について、運動方程式を立てることができる。		自由振動、強制振動について、運動方程式を立てることができない。	
評価項目2	微分方程式の解から振動の様子をグラフ化できる。また、振動の低減方法について説明できる。			グラフから振動の低減方法について説明できる。		振動の低減方法について説明できない。	
評価項目3	自由振動、強制振動等の英文を読むことができる。また、専門用語を書くことができる。			自由振動、強制振動等の英文を読むことができる。		自由振動、強制振動等の英文を読むことができない。	
評価項目4	自分で調査したことについて、内容を理解し、プレゼンテーションができる。また、質問に対して適切に答えることができる。			自分で調査したことについて、内容を理解し、プレゼンテーションができる。		自分で調査したことについて、内容を十分に把握できない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	本科で学習した機械力学の基礎をしっかりと固め、振動という物理現象をよく理解し、実構造の解析や設計に必要となるさらに発展した概念を理解する。自動車の振動問題を例にして、静的問題だけでなく動的問題を想定した工業製品設計の重要性を理解する。英語の専門技術用語に親しめるようにする。						
授業の進め方・方法	板書による講義形式で行う。						
注意点	本科5年生で履修した機械力学の内容（一自由度系、二自由度系振動など）を復習しておくこと。実際の機械構造の振動現象を、機械力学の観点から理解すること。また、英語の専門用語の修得に努めること。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス：振動騒音とは		1,2,3		
		2週	振動騒音試験法		1,2,3		
		3週	一自由度系の自由振動、強制振動		1,2		
		4週	二自由度系の振動（固有振動数、固有モード）		1,2		
		5週	二自由度系の振動（周波数応答関数）		1,2		
		6週	多自由度系の振動(1)		1,2		
		7週	多自由度系の振動(2)		1,2		
		8週	演習問題		1,2,3		
	4thQ	9週	連続体の振動(1)		1,2		
		10週	連続体の振動(2)		1,2		
		11週	連続体の振動(3)		1,2		
		12週	モード解析(1)		1,2		
		13週	モード解析(2)		1,2		
		14週	課題発表		4		
		15週	演習問題(1)		1,2,3		
		16週	演習問題(2)		1,2,3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	0	0	40	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	40	0	80
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	無機材料特論	
科目基礎情報							
科目番号	610111			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	平澤 英之						
到達目標							
1. 単結晶化、焼結理論、薄膜化、微粒子化、多孔質化などに必要な材料合成法が説明できること 2. セラミックスの機械的、電気的、磁気的性質、光触媒機構が説明できる 3. 環境関連材料、セラミックス複合材料、エンジニアリングセラミックスの用途・製法・構造等について説明できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	単結晶化、焼結理論、薄膜化、微粒子化、多孔質化に必要な材料合成法を理解し、その諸特性について理論的に説明ができる			単結晶化、焼結理論、薄膜化、微粒子化、多孔質化などに必要な材料合成方法について説明できる		単結晶化、焼結理論、薄膜化、微粒子化、多孔質化などに必要な材料合成法が説明できない	
評価項目2	セラミックスの機械的、電気的、磁気的性質、光触媒機構について、材料の構造を理解し理論的に説明できる			セラミックスの機械的、電気的、磁気的性質、光触媒機構の特徴について説明できる		セラミックスの機械的、電気的、磁気的性質、光触媒機構が説明できない	
評価項目3	環境関連材料、エンジニアリングセラミックスの用途・製法・構造および諸性質の発現機構について具体的に説明できる			環境関連材料、エンジニアリングセラミックスの用途・製法について説明できる		環境関連材料、エンジニアリングセラミックスの用途・製法が説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	セラミックスは陶磁器やガラスとして日常生活との関係が深い、エレクトロニクス分野においても重要な材料の1つである。代表的な材料として、半導体、磁性体、コンデンサー、圧電素子、酸化物高温超伝導体などがある。また、光触媒として利用されている材料もセラミックスである。本講義では、主として、セラミックスの合成法および機械的・電磁気的性質やガラスファイバーについて解説する。また、ゼオライトや光触媒等の環境材料についても解説し、現代社会、産業界において活躍する最先端の無機材料技術についても言及する。						
授業の進め方・方法	本科目では講義および自習課題により、セラミックスに関する実践的な能力を有する技術者の養成を目指している。毎回の授業内容について知識を得るだけでなく、しっかりと身に付けて研究等でも活用する気持ちで臨んで下さい。						
注意点	セラミックスの基礎理論や各種物性理論を理解するには、高専本科レベルの数学、物理、化学、物理化学に関する基礎知識が必要である。それぞれの基礎科目について十分復習し、習得しておくことが必要である。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	セラミックスの合成法 1（単結晶、焼結理論）			1	
		2週	セラミックスの合成法 2（焼結理論、微粒子合成法）			1	
		3週	セラミックスの合成法 3（薄膜化、多孔質化）			1	
		4週	セラミックスの機械的性質 1（応力・ひずみ）			2	
		5週	セラミックスの機械的性質 2（強度、熱と応力）			2	
		6週	セラミックスの構造解析			2	
		7週	電子・イオン伝導 1（電子伝導理論）			2	
		8週	電子・イオン伝導 2（各種材料物性、応用例）			2	
	2ndQ	9週	誘電・圧電性質（誘電分極機構、強誘電体）			2	
		10週	磁気的性質 1（磁性理論）			3	
		11週	磁気的性質 2（ソフト・ハード磁性材料）			3	
		12週	環境関連材料の用途、製法、構造 1（光触媒など）			3	
		13週	環境関連材料の用途、製法、構造 2（ゼオライトなど）			3	
		14週	セラミックス複合材料の用途、製法、靱性、構造			3	
		15週	エンジニアリングセラミックスの用途、製法、構造			3	
		16週	期末試験			1. 2. 3	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	レポート			合計	
総合評価割合		80	20			100	
専門的能力		80	20			100	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	先端複合材料	
科目基礎情報							
科目番号	610112			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	金属基複合材料入門 西田義則 (コロナ社)						
担当教員	松英 達也						
到達目標							
1. 複合材料とはどのような材料か、またなぜ複合材料が重要なのか簡単に説明できること。 2. 高性能繊維の種類とその特質について理解できること。 3. 複合材料の種類とその特徴が説明できること。 4. 複合材料における複合則が理解でき、基本的な強度計算ができること。 5. 複合材料の応力とひずみについて直交異方性の概念を理解できること。 6. 複合材料の非破壊検査について理解できること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複合材料とはどのような材料か、またなぜ複合材料が重要なのか具体例を挙げて、簡単に説明できる			複合材料とはどのような材料か、またなぜ複合材料が重要なのか簡単に説明できる		複合材料とはどのような材料か、またなぜ複合材料が重要なのかを説明することができない	
評価項目2	高性能繊維の種類とその特質について具体的に理解できること			高性能繊維の種類とその特質について理解できる		高性能繊維の種類とその特質について理解できない	
評価項目3	複合材料の種類とその特徴について具体的に説明できる			複合材料の種類とその特徴が説明できる		複合材料の種類とその特徴が説明できない	
評価項目4	複合材料における複合則が理解でき、具体的な材料について基本的な強度計算ができる			複合材料における複合則が理解でき、基本的な強度計算ができる		複合材料における複合則が理解でき、基本的な強度計算ができない	
評価項目5	複合材料の応力とひずみについて直交異方性の概念を理解し、応用できる			複合材料の応力とひずみについて直交異方性の概念を理解できる		複合材料の応力とひずみについて直交異方性の概念が理解できない	
評価項目6	複合材料の非破壊検査について理解し、具体的に活用できる			複合材料の非破壊検査について理解できる		複合材料の非破壊検査について理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	繊維強化複合材料を主体に、複合材料の用語、複合材料と複合プロセス、複合構造と組織、複合材料の力学的特質などについて学習し、高性能繊維を強化材とする先端複合材料についての基礎的知識を習得する。						
授業の進め方・方法	複合材料は、互いに補完し合う特性を持つ複数の材料を組合せることにより、従来の単一素材では実現できない特性を発現できるようにしたものである。複合材料は特殊な材料であり金属材料、高分子材料、無機材料の知識の上にさらに知識を積み上げる必要があるため、予習復習が大切である。講義は板書にて行い、適時、課題・小テストを実施する。						
注意点	複合材料の力学では材料力学、材料強度学、行列および線形代数の内容を十分に復習し、理解しておくこと。授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	複合材料の概要 (複合材料とは? 繊維強化複合材料、粒子分散強化複合材料)			1	
		2週	複合材料の種類			1,2	
		3週	複合材料の素材 (繊維材料 1)			2,3	
		4週	複合材料の素材 (繊維材料 2)			2,3	
		5週	複合材料の素材 (繊維材料 3)			2,3	
		6週	複合材料の素材 (母材について 1)			1,3	
		7週	複合材料の素材 (母材について 2)			1,3	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	複合材料の製法の基礎			1,3	
		10週	複合材料の製法 1 (粉末冶金など)			1,3	
		11週	複合材料の製法 2 (PVD、CVDなど)			1,3	
		12週	複合材料の力学 1 (複合則)			4	
		13週	複合材料の力学 2 (材料特性に関する複合則 1)			4,5	
		14週	複合材料の力学 3 (材料特性に関する複合則 2)			4,5	
		15週	複合材料の品質管理 (検査方法の基礎)			6	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題提出					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50

專門的能力	40	10	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料組織学	
科目基礎情報							
科目番号	610113		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	なし(プリント)						
担当教員	高橋 知司						
到達目標							
1. 結晶構造の特徴が説明できること。 2. 基本的な状態図を挙げ、説明できること。 3. 相平衡と自由エネルギーについて説明できること。 4. 原子の拡散の基礎的事項について説明できること。 5. 核生成と析出について理解できること。 6. マルテンサイト変態の基礎的事項について説明できること。 7. 回復と再結晶について説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	結晶構造について7晶系とブラベー格子について説明し、図を用いて具体的に説明できる		結晶構造の特徴が説明できる		結晶構造の特徴が説明できない		
評価項目2	基本的な状態図を挙げ、冷却曲線を用いて出現相などについて具体的に説明できる		基本的な状態図を挙げ、説明できる		基本的な状態図について説明できない		
評価項目3	相平衡と自由エネルギーについて説明でき、具体的に状態図との関連について理解できる		相平衡と自由エネルギーについて説明できる		相平衡と自由エネルギーについて説明できない		
評価項目4	原子の拡散の基礎的事項について説明でき、Fickの第1, 第2法則について理解できること		原子の拡散の基礎的事項について説明できる		原子の拡散の基礎的事項について説明できない		
評価項目5	古典的核生成理論を用いて、臨界核半径を導出し、核生成と析出について理解できる		基本的な核生成と析出について理解できる		核生成と析出について理解できない		
評価項目6	マルテンサイト変態、ベイナイト変態やパーライト変態の差異や基礎的事項について組織学的に説明できる		マルテンサイト変態の基礎的事項について説明できる		マルテンサイト変態の基礎的事項について説明できない		
評価項目7	回復と再結晶およびその現象の検証方法について実例を挙げて説明でき、再結晶の速度論の基礎について説明できる		回復と再結晶について説明できる		回復と再結晶について説明できない		
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	本科2～3年次の材料科学1,2における材料組織学分野、4年次の材料物理化学の熱力学および5年次の環境材料工学実験3の復習を十分に行っておくこと。						
授業の進め方・方法	試験80%、レポート10%、小テスト10%として評価する。なお、授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
注意点	授業ノートをよく復習行うこと。演習は適宜、課すので、しっかりと解けるようになっておくこと。金属材料工学の基礎をしっかりと理解した上で、状態図と自由エネルギーや拡散、材料の組織について深く勉強してほしい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	物質の凝集状態 1		1		
		2週	金属の結晶構造		1		
		3週	状態図(その1)		2		
		4週	状態図(その2)		2		
		5週	相平衡と自由エネルギー		3		
		6週	原子の移動と拡散		4		
		7週	相互拡散と反応拡散1		4		
		8週	相互拡散と反応拡散2		4		
	4thQ	9週	中間試験		1-4		
		10週	拡散変態の種類		5		
		11週	核生成と析出(その1)		5		
		12週	核生成と析出(その2)		5		
		13週	マルテンサイト変態		6		
		14週	回復と再結晶(その1)		7		
		15週	回復と再結晶(その2)		7		
		16週	期末試験		5-7		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合				
	試験	レポート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	80	10	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料熱力学	
科目基礎情報							
科目番号	610114			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	平澤 英之						
到達目標							
1. 熱力学第一法則、熱力学第二法則を理解し、説明することができる 2. 自由エネルギー、エントロピー等を用いて、種々の現象と熱力学を関連づけた説明ができる 3. 熱力学的知識を活用し、効率の良い材料設計を行なうことができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		熱力学第一法則、熱力学第二法則を理解し、説明することができる		熱力学第一法則、熱力学第二法則を用いた熱力学に関する計算ができる		熱力学第一法則、熱力学第二法則を用いた計算ができない	
評価項目2		自由エネルギー、エントロピー等を用いて、種々の現象と熱力学を関連づけた説明ができる		自由エネルギー、エントロピー等に関する熱力学の演習問題ができる		自由エネルギー、エントロピー等に関する熱力学の計算ができない	
評価項目3		熱力学的知識を活用した熱分析、および効率の良い材料設計を行なうことができる		熱力学的知識を活用し、材料設計を行なうことができる		熱力学的知識を活用した材料設計ができない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要		本講義では、熱力学に関する知識を修得し工学に応用する力を身につけることを目的としている。そこで、熱力学第一法則、第二法則に関する演習を行なうことで専門知識を修得する。また、企業・産業において熱力学、熱測定が重要な課題となる例について説明し、TG-DTAやDSCなど実際の熱測定データを活用して、材料設計に応用できる能力を養う。					
授業の進め方・方法		本講義では演習問題実施し、専門書を活用して自分の力で問題を解決する能力の涵養をはかる。					
注意点		本科目は、本科3年:物理化学、4年:材料物理化学、5年:エネルギー材料工学、材料物性学等多くの科目と関連がある。事前学習は上記関連科目で用いたテキスト、授業ノートを活用し復習をしておくこと。					
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	熱力学第一法則に関する熱力学演習問題と説明 (U=Q+W、H=U+PV等 第一法則の関数)		1		
		2週	熱力学第一法則に関する演習問題と説明 (状態量について、理想気体、等温可逆膨張・圧縮、断熱可逆膨張圧縮)		1		
		3週	熱力学第一法則に関する演習問題と説明 1 (仕事、熱量の具体的計算 Cv、Cp 他)		1		
		4週	熱力学第一法則に関する演習問題と説明 2 (仕事、熱量の具体的計算 Cv、Cp 他)		1		
		5週	熱化学演習問題と説明 (燃焼熱、Hessの法則他)		1		
		6週	熱力学第二法則に関する熱力学演習問題と説明 1 ($\Delta S=\Delta Q/T$ 他)		1		
		7週	熱力学第二法則に関する熱力学演習問題と説明 2 (カルノーサイクル他)		1		
		8週	熱力学第二法則に関する演習問題と説明 (カルノーサイクル、熱効率)		1		
	4thQ	9週	熱力学第二法則に関する演習問題と説明 (エントロピーの解釈、混合エントロピー)		1. 2		
		10週	熱力学第二法則に関する演習問題と説明 (G=H-TS、A=U-TS、自由エネルギー導出過程)		1. 2		
		11週	熱力学第二法則に関する演習問題と説明 (自由エネルギーの計算と意味) 相平衡に関する演習問題と説明		1. 2		
		12週	企業における熱力学・熱的特性解析の役割		3		
		13週	熱力学・熱測定が重要な課題の例 1		3		
		14週	熱力学・熱測定が重要な課題の例 2		3		
		15週	DSCおよびTG-DTAによる熱解析		3		
		16週	期末試験		1. 2. 3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	レポート			合計	
総合評価割合		80	20			100	
専門的能力		80	20			100	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	精密加工学	
科目基礎情報							
科目番号	610115			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	平田 傑之						
到達目標							
1. 加工の基礎を理解し、精密加工の現状を理解できること。 2. 超精密加工法の基礎と加工精度の計測法を理解できること。 3. 高エネルギービーム加工を理解できること。 4. 精密加工に関する情報を調べ、適切に報告する資料の作成ができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	加工の基礎と精密加工の現状を説明できる。			加工の基礎と精密加工の現状を理解できる。		加工の基礎と精密加工の現状を理解できない。	
評価項目2	超精密加工法の基礎と加工精度の計測法を説明できる。			超精密加工法の基礎と加工精度の計測法を理解できる。		超精密加工法の基礎と加工精度の計測法を理解できない。	
評価項目3	高エネルギービーム加工を説明できる。			高エネルギービーム加工を理解できる。		高エネルギービーム加工を理解できない。	
評価項目4	精密加工に関する情報を調べ、報告資料の作成ができ、説明できる。			精密加工に関する情報を調べ、報告資料の作成ができる。		精密加工に関する情報を調べ、報告資料の作成ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	精密加工の基礎と応用について学習し、加工精度、計測精度の向上が産業の発展に及ぼす効果を学習する。さらに、輪講形式のまとめかたを理解しプレゼンテーション能力を高めることを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義を進めると共に、各人が課題をもって輪講形式の授業を行う。						
注意点	ナノオーダーの加工・計測法は、物理学、化学、材料学、機械工学、電気・電子工学、制御工学等の広い分野の基礎知識の上に成り立っている。それぞれの分野の基礎的科目を理解して、習得しておく必要がある。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	精密加工の歴史と機械加工の限界		1,2		
		2週	超精密加工法の基礎		1,2		
		3週	超精密加工法と計測法		1,2		
		4週	超精密加工の種類		3		
		5週	エネルギービーム加工法の基礎		3		
		6週	エネルギービーム加工法		3		
		7週	レーザービーム加工		3		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	電子ビーム加工		3		
		10週	イオンビーム加工		3		
		11週	化学エネルギー加工		3		
		12週	電気化学エネルギー加工		3		
		13週	最近の話題		4		
		14週	最近の話題		4		
		15週	期末試験				
		16週	講義振り返り		4		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	シニア・インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	610121			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材							
担当教員	谷脇 充浩						
到達目標							
1. 学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験すること。 2. 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識すること。 3. 実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを十分に体験できた。			学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験できた。		学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験できなかった。	
評価項目2	安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を十分に認識できる。			安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識できる。		安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識できない。	
評価項目3	実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答が十分にできる。			実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができる。		実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B) 教養・技術者倫理 (D) コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	企業、研究所、官公庁等の実社会で実習する体験を通じて、組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得させ、実習体験で得た成果を今後の学習（特に特別研究）に生かすことを目標としている。						
授業の進め方・方法	1. 原則として連続する2週間以上の期間、学外で実習する。 2. 実習内容は、製造・生産現場での業務に限定せず、設計・研究などの業務体験を含む。 3. 各自が記録した業務日誌と一連の実習を総括した報告書を提出する。 4. 学内実習報告会において実習内容を発表する。						
注意点	実施に当たっては専攻主任または特別研究担当教員と緊密に連絡を取り合って実施すること。これまで本科5年間の授業や卒業研究、4年時のインターンシップなどで身につけた専門知識と実験技術などを用いて問題を見だし、計画的にその問題を解決する事のできる能力を確かめ、さらに成長してきてほしい。実習期間中は技術、センス等の吸収につとめ、学校で習う知識と、広い意味での現場での実際との違いをいろいろな角度から感じて欲しい。それをばねにして、今後の勉学に励んで欲しい。実習先からの評価書、学生が提出した業務日誌と実習報告書、実習報告会の発表結果の評価がいずれも合格（60点以上）の場合、単位を認める。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		評価書、日誌・報告書、報告会		合計	
総合評価割合		100		100	
基礎的能力		0		0	
専門的能力		0		0	
分野横断的能力		100		100	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	量子エレクトロニクス	
科目基礎情報							
科目番号	610122		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	福田 京也						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	基礎量子化学	
科目基礎情報							
科目番号	610123			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	アトキンス 物理化学（上）第10版 中野 元裕他 訳 （東京化学同人）						
担当教員	勝浦 創						
到達目標							
1. 光や電子の二重性について説明できること。 2. ボーアの原子模型を説明できること。 3. シュレディンガー方程式を導くことができること。 4. 並進運動に関してシュレディンガー方程式を解くことができること。 5. 重ね合わせの原理について説明できること。 6. 不確定性原理について説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	光や電子の二重性について、実験例を上げて具体的に説明できる。		光や電子の二重性について、説明できる。		光や電子の二重性について、説明できない。		
評価項目2	ボーアの原子模型、およびその問題点を説明できる。		ボーアの原子模型を説明できる。		ボーアの原子模型を説明できない。		
評価項目3	時間に依存する及びしないシュレディンガー方程式を導くことができる。		時間に依存しないシュレディンガー方程式を導くことができる。		シュレディンガー方程式を導くことができない。		
評価項目4	3次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができる。		1次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができる。		1次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができない。		
評価項目5	重ね合わせの原理について数式と言葉を用いて説明できる。		重ね合わせの原理について言葉で説明できる。		重ね合わせの原理について説明できない。		
評価項目6	不確定性原理について数式と言葉を用いて説明できる。		不確定性原理について言葉で説明できる。		不確定性原理について言葉で説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	個々の原子、分子について理解するためにシュレーディンガーの波動方程式、不確定性原理など量子論の概念を理解する。これらを用いて水素型原子の構造とスペクトルについて理解することを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義を中心に進める。						
注意点	物理（力学、波）と数学（演算子、直交座標と極座標の変換）について復習しておいてください。講義で導いた式を自ら誘導してみるなど積極的に取り組んでもらいたい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	黒体輻射と光電効果		1		
		2週	光の二重性		1		
		3週	水素原子の構造		2		
		4週	水素のスペクトルとボーアの水素モデル		2		
		5週	ド・ブロイ波と波の式		1,3		
		6週	シュレディンガー方程式		3		
		7週	波動関数に含まれる情報		3		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却・1次元の箱の中の粒子1		4		
		10週	1次元の箱の中の粒子2		4		
		11週	3次元の箱の中の粒子		4		
		12週	系の一般的状態と固有値				
		13週	古典物理量の演算子の性質				
		14週	重ね合わせの原理		5		
		15週	不確定性原理		6		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	人間と倫理	
科目基礎情報							
科目番号	600001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント配布/適宜講義内で紹介						
担当教員	濱井 潤也						
到達目標							
1. 普段目にする機会のない、応用倫理学、実践哲学各分野の文章を抄読し、論点を把握することができる。 2. 講読した文献の内容について、論点を整理してわかりやすくまとめることができる。 3. 論点となっている問題に対して、自分なりの分析と見解を理論的に展開し、プレゼンテーションできる。 4. 他者との質疑応答を通じて、有意義なディスカッションを形成し進行することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	倫理・哲学・社会思想分野の文献の内容理解を基に、現代社会の諸問題を考察できる			倫理・哲学・社会思想分野の文献を通読し、内容を理解することができる		倫理・哲学・社会思想分野の文献を通読し、内容を理解することができない	
到達目標2	倫理・哲学・社会思想分野の文献の論点を整理し、プレゼン資料を作成することができる			倫理・哲学・社会思想分野の文献を通読し、論点を抽出することができる		倫理・哲学・社会思想分野の文献を通読し、論点を抽出することができない	
到達目標3	倫理・哲学・社会思想分野の文献の内容を分析し、独自の見解を述べるることができる			倫理・哲学・社会思想分野の文献の論旨を紹介することができる		倫理・哲学・社会思想分野の文献の論旨を紹介することができない	
到達目標4	倫理・哲学・社会思想分野の文献についての自己のプレゼンに対して、質問に答えられる			倫理・哲学・社会思想分野の文献についての他者のプレゼンに対して、質問できる		倫理・哲学・社会思想分野の文献についての他者のプレゼンに対して、質問できない	
学科の到達目標項目との関係							
教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	実践的な内容を含む哲学・思想各分野のエッセイや諸論文の丹念な読解、解釈を通じて、プレゼンテーションやディスカッションを行い、人間社会を取り巻く様々な問題を深く掘り下げ、多面的に考察できるよう広い視野を養う。						
授業の進め方・方法	週ごとに対象とする文献と担当者を決定し、担当者による内容の解説、分析及び意見のプレゼンテーションと質疑応答によって進めます。文献は事前にWeb class等で配布しますので、事前に読んでおいてください。						
注意点	履修する学生は必ず1回はプレゼンテーションを行ってください。なおプレゼン担当者が授業の日に出席できない場合は、早急に教員まで連絡してください。プレゼン担当者は作成したプレゼン資料のデータを前日までにメールで教員に送ってください。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	政治哲学分野				
		3週	政治哲学分野				
		4週	政治哲学分野				
		5週	環境倫理分野				
		6週	環境倫理分野				
		7週	環境倫理分野				
		8週	生命倫理分野				
	2ndQ	9週	生命倫理分野				
		10週	生命倫理分野				
		11週	技術者倫理分野				
		12週	技術者倫理分野				
		13週	技術者倫理分野				
		14週	その他分野				
		15週	期末試験				
		16週	試験の返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		プレゼンテーション		レポート	合計	
総合評価割合	30		50		20	100	
基礎的能力	30		50		20	100	
専門的能力	0		0		0	0	
分野横断的能力	0		0		0	0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	科学英語表現
科目基礎情報					
科目番号	600004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Speaking in Public（成美堂）				
担当教員	平田 隆一郎				
到達目標					
1. 基礎的な内容の英文を読解できる語彙・文法を習得する。 2. 仲間のプレゼンテーションを理解できるリスニング能力を身につける。 3. 平易な英語を使った論理的なライティング能力を身につける。 4. きちんと相手に伝わるプレゼンテーション能力を身につける。 5. 最終的には自分の専門分野のことを英語でプレゼンテーションできることを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
基礎的な内容の英文を読解できる語彙・文法を習得する。	基礎的な内容の英文を読解できる語彙・文法を習得し、応用することができる。		基礎的な内容の英文を読解できる語彙・文法を習得している。		基礎的な内容の英文を読解できる語彙・文法を習得していない。
仲間のプレゼンテーションを理解できるリスニング能力を身につける。	発表者のプレゼンテーションを聴き取り、それについて質問することができる。		発表者のプレゼンテーションの概要を聴き取ることができる。		発表者のプレゼンテーションの概要を聴き取ることができない。
平易な英語を使った論理的なライティング能力を身につける。	平易な英語を使った論理的な英文を書くことができる。		平易な英語を使った英文を書くことができる。		平易な英語を使った英文を書くことができない。
きちんと相手に伝わるプレゼンテーション能力を身につける。	聞き手に理解しやすく興味が持てるようなプレゼンテーションができる。		話の内容が聞き手に伝わるプレゼンテーションができる。		話の内容が聞き手に伝わるプレゼンテーションができない。
最終的には自分の専門分野のことを英語でプレゼンテーションできることを目指す。	自分の専門分野について聞き手に理解しやすく興味が持てるようなプレゼンテーションできる。		自分の専門分野について聞き手に伝わるプレゼンテーションできる。		自分の専門分野について聞き手に伝わるプレゼンテーションできない。
学科の到達目標項目との関係					
コミュニケーション能力 (E)					
教育方法等					
概要	基礎的なプレゼンテーション用のテキストを用い、英語によるプレゼンテーションの仕方を学ぶ。語彙・文法の定着を図りながら、英語による表現力の向上を目指す。「読む」「聴く」というインプットを「書く」「話す」というアウトプットへと効果的につなげることが本授業のねらいである。				
授業の進め方・方法	テキストの内容に沿って2回の授業で1 Unit 進みます。テキストの予習・復習の他、ライティング能力向上のため英作文の課題を課します。実際にプレゼンテーションを行ってもらうので、それまでに原稿を用意し練習をしておく必要があります。関連科目：英語演習書購読				
注意点	これまでの授業で学んできたリーディング・リスニング・ライティング能力を土台にして、英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。英語でプレゼンテーションをするためにはスピーキング能力が必要です。しかしその前に、スピーキングを行うためにはライティング能力が不可欠です。ライティング・スピーキング能力を磨くためには練習しかありません。一緒に練習しましょう。そして英語にとどまらず、社会で通用するコミュニケーション能力を身につけましょう。				
本科目の区分					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	1,2,3,4	
		2週	Unit 1 Introduction	1,2,3,4	
		3週	Unit 1 Introduction	1,2,3,4	
		4週	Unit 2 Talking about Hobbies	1,2,3,4	
		5週	Unit 2 Talking about Hobbies	1,2,3,4	
		6週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		7週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		8週	Unit 3 Talking about People	1,2,3,4	
	2ndQ	9週	Unit 3 Talking about People	1,2,3,4	
		10週	Unit 4 Talking about Places	1,2,3,4	
		11週	Unit 4 Talking about Places	1,2,3,4	
		12週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		13週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		14週	Unit 5 Telling Stories	1,2,3,4	
		15週	Unit 5 Telling Stories	1,2,3,4	
		16週	試験	1,2,3,4	
後期	3rdQ	1週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		2週	プレゼンテーション	1,2,3,4	
		3週	Unit 6 Talking about Health	1,2,3,4	
		4週	Unit 6 Talking about Health	1,2,3,4	

		5週	Unit 7 Talking about Entertainment	1,2,3,4
		6週	Unit 7 Talking about Entertainment	1,2,3,4
		7週	Unit 8 Doing a Little Research	1,2,3,4
		8週	Unit 8 Doing a Little Research	1,2,3,4
	4thQ	9週	プレゼンテーション	1,2,3,4,5
		10週	プレゼンテーション	1,2,3,4,5
		11週	プレゼンテーション	1,2,3,4,5
		12週	Unit 9 Causes and Effects	1,2,3,4
		13週	Unit 9 Causes and Effects	1,2,3,4
		14週	Unit 10 Problems and Solutions	1,2,3,4
		15週	Unit 10 Problems and Solutions	1,2,3,4
		16週	試験	1,2,3,4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	課題	TOEIC	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	現代社会と法
科目基礎情報					
科目番号	600104		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	石川明・池田真朗・宮島司・安富潔・三上威彦・大森正仁・三木浩一・小山剛編『法学六法'17』信山社、2017石川明・池田真朗・宮島司・安富潔・三上威彦・大森正仁・三木浩一・小山剛編『法学六法'18』信山社、2018				
担当教員	未 定				
到達目標					
1. 現代日本における社会問題の背景について経年的に理解している。 2. 社会科学における調査の理論と基礎的な方法論について理解している。 3. 社会調査を実施し、現代日本における社会問題の実態を析出することができる。 4. 調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	現代日本にみられる社会問題の変容過程について、経時的因果関係を理解している。		現代日本にみられる社会問題について、戦後からの主要な出来事を理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。		現代日本にみられる社会問題について、主要な出来事の相互関係を理解していない。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。
評価項目2	社会調査の理論と方法論を理解したうえで、社会調査を企画・設計することができる。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。		社会調査の理論に加えて、調査を実施するための方法論についても理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。		社会調査の理論と方法論を理解しておらず、社会調査を企画・設計できない。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。
評価項目3	企画・設計どおりに調査を実施し、現代日本の社会問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。		調査倫理を守って社会調査を実施し、実態把握のための資料を収集することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。		調査倫理に反したり、企画・設計どおりに社会調査を実施できない。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。社会調査を実施し、現代社会における法的問題の実態を析出することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。

評価項目4	データの分析結果から集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。 現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。 社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。	調査で得られたデータを正当かつ妥当な方法で分析し、解決策を考察することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。 現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。 社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。	調査で得られたデータから解決策を提示できず、主張に偏見やバイアスが含まれている。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。調査結果をもとに集団内で合意形成を図り、解決策を提示することができる。 現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。現代社会にみられる多様な法的問題の背景について経年的に理解している。 社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。社会調査の理論および実施するための基礎的な方法論について理解している。
-------	--	---	---

学科の到達目標項目との関係

教養・技術者倫理 (D)

教育方法等

概要	本授業は、受講者が現代日本における社会問題について背景を理解したうえで、規制立法の趣旨と訴訟を通じた法使用の効果を解明し、調査票による実態調査から明確な根拠をもとに解決方策を提示していくための技能を修得することを目的とする。本年度の社会調査については、「学生アルバイトにおける労働問題」を扱う。
授業の進め方・方法	授業は講義＋演習＋ゼミ形式で行い、講義内容についてはプリントアウトして配布する。
注意点	各課題において受講者はレジュメの作成と報告を行うが、ゼミ形式によりグループ・ディスカッションを行うため、積極的に議論をする習慣をつけること。受講者の調査テーマについては、初回授業時に決定する。また、授業に関する内容を検索するために、スマートフォン・タブレット端末の持込は許可するが、授業目的外での使用は禁止する。

本科目の区分

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	法社会学の現代的意義と課題	1
		2週	現代日本における立法過程と行政過程	1,2
		3週	現代日本における労働法制と労働者の権利	1,2
		4週	課題発表（1）：国会会議録分析と立法の趣旨	1,2,3
		5週	戦前・戦中期：国家統制経済と垂直的生産体制	1
		6週	戦後復興期：GHQ/SCAP主導による労働改革	1
		7週	高度成長期：完全雇用の達成と所得水準向上	1
		8週	安定成長期：公共事業の拡大と雇用の国際化	1
	2ndQ	9週	バブル崩壊後：長期デフレ不況と雇用の流動化	1
		10週	課題発表（2）：裁判所判例分析と法使用の効果	1,2,3
		11週	社会調査：調査倫理と定量的・定性的データ分析	1,2
		12週	調査設計：ワーディングとサンプリングの方法論	1,2
		13週	調査実施：データの集計・加工・分析と仮説検証	1,2
		14週	課題発表（3）：調査票調査と社会問題の実態	1,2,3
		15週	総括：学生のアルバイト労働実態と改善策提言	1,2,3,4
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	電磁気学	
科目基礎情報							
科目番号	610004			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	香川 福有						
到達目標							
1.静電場における諸現象の理解する 2.静磁場における諸現象の理解する 3.電磁波の現象を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	静電場における諸物理量がどのようなものであるか理解し、求めることができる			静電場における諸物理量を求めることができるが、どのようなものであるかは理解できていない		静電場における諸物理量を求めることができない	
評価項目2	静磁場における諸物理量がどのようなものであるか理解し、求めることができる			静磁場における諸物理量を求めることができるが、どのようなものであるかは理解できていない		静磁場における諸物理量を求めることができない	
評価項目3	マクスウェルの方程式から波動方程式を導くことができる			マクスウェルの方程式は書けるが、波動方程式を導くことができない		マクスウェルの方程式が書けない	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	日常生活で電気に関係することからの、さらにその基礎的位置付けの科目として電磁気学は極めて重要である。本講では電磁気学の重要な概念、法則、現象などの定性的理解が得られるように留意し、講義を行なう。更に、さまざまな工学分野への応用を見据えた上で、その基礎となる電気・磁気の性質について理解を深めることを目標とする。						
授業の進め方・方法	本講では電磁気学の重要な概念、法則、現象などの定性的理解が得られるように留意し、講義を行なう。						
注意点	電磁気学は、今後、学生諸君が色々な分野で色々な形で関わることになる可能性が大きい。講義内容が広範囲にわたることになるが、基本を充分理解されるよう努められたい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電荷		1		
		2週	電界		1		
		3週	電位		1		
		4週	静電容量		1		
		5週	誘電体		1		
		6週	コンデンサー		1		
		7週	電流、電力		1		
		8週	導体の抵抗		1		
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	静磁界		2		
		11週	電流磁界		2		
		12週	電流が磁界から受ける力		2		
		13週	電磁誘導		2		
		14週	インダクタンス		2		
		15週	Maxwellの方程式と電磁波		3		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	マイクロエレクトロニクス	
科目基礎情報							
科目番号	610006			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	福田 京也						
到達目標							
1電源と抵抗を含む回路において、各部の電流、電圧が計算できる 2交流回路の基本的計算ができる 3トランジスタの動作原理が説明でき、特性図を用いて増幅度を計算できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	電源と抵抗を含む様々な回路において、各部の電流、電圧が計算できる			電源と抵抗を含む直列回路および並列回路において、各部の電流、電圧が計算できる		電源と抵抗を含む直列回路および並列回路において、各部の電流、電圧が計算できない	
評価項目2	様々な交流回路の基本的計算ができる			直列および並列接続の交流回路の基本的計算ができる		直列および並列接続の交流回路の基本的計算ができない	
評価項目3	pn 接合ダイオードやトランジスタの動作原理が説明でき、特性図を用いて増幅度を計算できる			トランジスタの動作原理が説明でき、特性図を用いて動作点を求めることができる		トランジスタの動作原理が説明でき、特性図を用いて動作点を求めることができない	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	生産工学技術者にとって重要な電気回路、電子回路に関する基礎知識および応用知識を活用する能力を身につけることを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義を中心に授業を進めるが、授業の途中にレポート及び課題問題を出す。また、学んだ知識を実験で確認するために、オペアンプを用いた増幅回路の作成を行う。						
注意点	課題として、授業の復習となる演習問題を課す。授業の途中にレポート課題を出す。また、増幅回路の作成とその動作確認も課題とし、これら課題の提出状況および解答内容も評価点となる。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電圧・電流・電力・電力量について		電圧・電流・電力・電力量について計算ができる		
		2週	キルヒホッフの法則		キルヒホッフの法則を用いて式を立てることができる		
		3週	回路方程式の立て方とその解法		回路方程式を立てることができる		
		4週	抵抗、コイル、コンデンサとその特性		抵抗、コイル、コンデンサを含む回路の合成値が計算できる		
		5週	フェーザ表示を用いた交流回路の計算法 1		フェーザ表示を用いて交流回路（素子単独）の電流電圧が計算できる		
		6週	フェーザ表示を用いた交流回路の計算法 2		フェーザ表示を用いて交流回路（素子複数）の電流電圧が計算できる		
		7週	半導体とPN 接合		PN 接合ダイオードの整流作用について説明できる		
		8週	ダイオード回路		ダイオード回路の動作点の電流電圧を計算できる		
	4thQ	9週	トランジスタの動作原理		トランジスタの動作原理を説明できる		
		10週	トランジスタの接地回路		トランジスタの3つの接地回路の特長を説明できる		
		11週	トランジスタ回路の直流バイアス		トランジスタ回路の直流負荷線を引くことができる		
		12週	トランジスタによる交流信号増幅		トランジスタ回路の交流負荷線を引くことができる		
		13週	オペアンプとその応用 1（製作実習を含む）		オペアンプを正しく使える		
		14週	オペアンプとその応用 2（製作実習を含む）		オペアンプを使って交流信号の増幅ができる		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却、復習				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	製作実習	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	10	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	30	10	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	コンピュータ・アナリシス	
科目基礎情報							
科目番号	610007			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書なし：適宜、資料を提供する						
担当教員	松友 真哉						
到達目標							
1.コンピュータアナリシスにおけるモデル化の意味が理解できること 2.最適化の必要性和各種の最適化手法を理解できること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンピュータアナリシスにおけるモデル化の意味が理解できており簡単なモデルが構築でき、問題を分析できる。			コンピュータアナリシスにおけるモデル化の意味が理解できている。		コンピュータアナリシスにおけるモデル化の意味が理解できていない。	
評価項目2	最適化の必要性和各種の最適化手法を理解でき、最適化計算が実践できる。			最適化の必要性和各種の最適化手法を挙げることができる。		最適化の必要性和各種の最適化手法を挙げることができない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	生産現場の技術者として必要なシステム工学的なアプローチ法を修得してもらう。						
授業の進め方・方法	毎回の課題を次回までに自己学習として終えておくこと。 関連科目は、線形代数、シミュレーション工学、数値計算。						
注意点	授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。 事前学習は、毎回の課題を次回までに終えておくこと。 関連科目は、線形代数、シミュレーション工学、数値計算。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	コンピュータアナリシスの概要			1,2	
		2週	数学的基礎・演習			1,2	
		3週	確率・統計データの扱い			1	
		4週	モデル化の本質			1	
		5週	最適化問題とは			2	
		6週	コンピュータによる最適化計算演習 1			1,2	
		7週	コンピュータによる最適化計算演習 2			1,2	
		8週	中間試験			1,2	
	4thQ	9週	さまざまな最適化手法			2	
		10週	身の回りの最適化問題のモデル化			1,2	
		11週	モデル化と最適化の演習			1,2	
		12週	演習内容の発表と議論 1			1,2	
		13週	演習内容の発表と議論 2			1,2	
		14週	待ち行列の基礎			1	
		15週	待ち行列の演習			1	
		16週	期末試験			1,2	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	35	15	0	0	0	0	50
分野横断的能力	35	15	0	0	0	0	50

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	デザインテクノロジー	
科目基礎情報							
科目番号	610009			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	吉川 貴士						
到達目標							
1. 商品やシステム開発における複数のアイデアの創造法理論を理解し、活用できる 2. アイデア・設計における感性の評価方法などを理解し、活用できる 3. アイデアを具現化する設計手法を理解し、活用できる 4. ものづくりに人間工学的思考を加味できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	8種類以上のアイデア創出方法の違い(メリット・デメリット)を理解し、実際に課題解決の場において活用できる			5種類以上のアイデア創出方法を理解し、活用できる		5種類以上のアイデア創出方法を理解し、活用できない	
評価項目2	5種類以上のアイデア評価方法の違い(メリット・デメリット)を理解し、かつ、感性の評価について客観的定量評価ができる			3種類以上の評価方法を理解し、活用できる		3種類程度の評価方法を理解し、活用できない	
評価項目3	課題から設計仕様(評価基準)を具体的に設定し、解決策を複数提案できる			ものづくり(設計)手順を理解し、活用できる		課題から機能的要求を抽出し、解決策を提案できない	
評価項目 4	設計手順において、人間の生理学的特性など理解し、それらを活用してユニバーサルデザインの課題解決できる			人間の生理学的特性について理解し、ユニバーサルデザインの必要性を理解できる		人間の特性を理解できないまたは、ユニバーサルデザインの必要性が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	設計における原理・合理的手法、アイデアの創出から具現化、評価法およびその意思伝達の一連について学び、実践する。						
授業の進め方・方法	原理原則を学び、自学自習において実践し、理解を深める						
注意点	福祉機器開発における留意点なども学ぶ。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の進め方および採点方法の説明、発想法の説明		1		
		2週	メタコンセプト法、ブレーンストーミング法、ブレーンライティング法		1		
		3週	メカニカル発想法、思考展開法		1		
		4週	設計開発工学（設計原理）		3		
		5週	概念設計		3		
		6週	設計手法（手順）		3		
		7週	評価方法（コスト・ベネフィット法、点数評価法、レクサット法）		2		
		8週	レクサット法（感性評価）		2		
	2ndQ	9週	問題解決の基本手順とツール		3		
		10週	独創的な商品開発		1		
		11週	思考展開		3		
		12週	バリューエンジニアリング		4		
		13週	製造における完全自動化の弊害		4		
		14週	ユニバーサルデザインの発想		4		
		15週	人間工学的発想		4		
		16週	エンジニアの責任				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	数値計算法及び演習 A	
科目基礎情報							
科目番号	610019			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	三井 正						
到達目標							
1. 配列を使って行列を表現し、行列の計算を行うことができる。 2. 反復法の考え方を説明できる。 3. 連立方程式の解法のアルゴリズムを説明できる。 4. 補間のアルゴリズムを説明できる。 5. 数値積分のアルゴリズムを説明できる。 6. 微分方程式の解法のアルゴリズムを説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	配列を使って行列を表現し、行列の積などの複雑な行列計算を行うことができる。			配列を使って行列を表現し、行列の簡単な計算を行うことができる。		行列の簡単な計算を行うことができない。	
評価項目2	反復法の考え方および収束判定について説明することができる。			反復法の考え方を説明することができる。		反復法の考え方を説明できない。	
評価項目3	ヤコビ法、ガウスの消去法のアルゴリズムを説明でき、プログラムを作成できる。			ヤコビ法、ガウスの消去法のアルゴリズムを説明できる。		ヤコビ法、ガウスの消去法のアルゴリズムを説明できない。	
評価項目4	補間のアルゴリズムを説明でき、プログラムを作成できる。			補間のアルゴリズムを説明できる。		補間のアルゴリズムを説明できない。	
評価項目5	数値積分のアルゴリズムおよび分割数と誤差の関係を説明できる。			数値積分のアルゴリズムを説明できる。		数値積分のアルゴリズムを説明できない。	
評価項目6	微分方程式の解法のアルゴリズムを説明でき、プログラムを作成できる。			微分方程式の解法のアルゴリズムを説明できる。		微分方程式の解法のアルゴリズムを説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	連立一次方程式の解法、数値積分、常微分方程式の初期値問題などについて、コンピュータを用いたプログラミングの演習を行うことにより、数値計算法の基礎知識を学習する						
授業の進め方・方法	配布プリントをもとに、各種数値計算法を説明し、実際にプログラムを作成する演習を行う。						
注意点	本科目を履修するためには1年生のプログラミング演習でプログラミングの基礎を習得しておく必要がある。 また、欠課時間数が総授業時間の1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ニュートン法と誤差		2		
		2週	配列と行列1		1		
		3週	配列と行列2		1		
		4週	連立1次方程式の解法 ヤコビ法、ガウス・ザイデル法		2,3		
		5週	連立1次方程式の解法 ガウスの消去法 1		3		
		6週	連立1次方程式の解法 ガウスの消去法 2		3		
		7週	ラグランジュ補間		4		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却及び解説、数値積分 台形則		5		
		10週	数値積分 シンプソンの公式		5		
		11週	1階常微分方程式の解法 オイラー法		6		
		12週	1階常微分方程式の解法 修正オイラー法		6		
		13週	1階常微分方程式の解法 ルンゲ・クッタ法		6		
		14週	高階常微分方程式の解法 オイラー法、修正オイラー法		6		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却及び解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	課題		合計		
総合評価割合		80	20		100		
基礎的能力		80	20		100		
専門的能力		0	0		0		

分野横断的能力	0	0	0
---------	---	---	---

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	数値計算法及び演習 B	
科目基礎情報							
科目番号	610020			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	後期:4		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	三井 正						
到達目標							
1. Matlab を用いてベクトル・行列の計算ができる。 2. Matlab の制御構造や関数をさくせいできる。 3. Matlab を用いてグラフを作成できる。 4. Matlab を数値計算に利用できる。 5. Matlab を数式処理に利用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	Matlab を用いてベクトル・行列の複雑な計算ができる。			Matlab を用いてベクトル・行列を作成し、計算することができる。		Matlab を用いたベクトル・行列の計算ができない。	
評価項目2	Matlab の制御構造や作成した関数を利用して高度な計算ができる。			Matlab の制御構造や関数を作成できる。		Matlab の制御構造や関数を作成できない。	
評価項目3	Matlab を用いて2次元や3次元のグラフを作成し、アニメーションにすることができる。			Matlab を用いて2次元や3次元のグラフを作成できる。		Matlab を用いてグラフを作成できない。	
評価項目4	Matlab の関数を用いた数値計算と制御構造などを利用して複雑な計算ができる。			Matlab の関数を用いた基本的な計算ができる。		Matlab を用いた数値計算ができない。	
評価項目5	Matlab の数式処理を実際の問題に応用できる。			Matlab を用いて簡単な数式処理ができる。		Matlab を用いた数式処理ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	高度な数値計算や視覚化を容易に行うことができるツールとして Matlab をとりあげ、これを利用するための基礎的なテクニックを学習する。						
授業の進め方・方法	配布プリントをもとに、Matlab の利用方法を説明し、実際にプログラムを作成する演習を行う。						
注意点	欠課時間数が総授業時間の 1 / 4 を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ベクトル・行列と2次元グラフ		1		
		2週	繰り返し構造		2		
		3週	条件分岐		2		
		4週	関数定義		2		
		5週	3次元グラフ		3		
		6週	非線形方程式の解、関数の最大値・最小値		4		
		7週	行列の固有値・固有ベクトル		4		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	試験返却、解説、データの補間と数値積分		4		
		10週	フーリエ変換		4		
		11週	音声のフーリエ変換		4		
		12週	微分方程式の数値解法		4		
		13週	統計解析		4		
		14週	数式処理の基礎		5		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却、解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		課題		合計		
総合評価割合	80		20		100		
基礎的能力	80		20		100		
専門的能力	0		0		0		
分野横断的能力	0		0		0		

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生産工学ゼミナールⅡ 2	
科目基礎情報							
科目番号	610024			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	新田 敦己,志賀 信哉,松英 達也,日野 孝紀,高見 静香,松原 靖廣,朝日 太郎,平澤 英之,當代 光陽,真中 俊明						
到達目標							
前期 1～15回: 問題解決の基礎は、問題を発見し有効な解決策の実行計画を立案して実行することである。目標を達成するために重要な『本質的問題の発見』の考え方と、発見に必要な情報収集や整理・統合方法を講義と演習にて実践する。							
後期 1～15回: 「特別研究に関する背景、理論などを低学年の学生に理解させる」という課題について、 1. プレゼンテーション、アンケート調査の実施 2. アンケートの分析、本質的な問題点を見つけ出す 3. 改善策の立案 4. 再度プレゼンテーション、アンケートの実施 5. アンケートの分析、改善策の効果を確認を実施する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	いくつかの事実に基づいて社会情勢を把握し、その中で自らの立場を具体的に理解できる。			いくつかの事実に基づいて社会情勢を把握し、その中で自らの立場が理解できる。		いくつかの事実に基づいた社会情勢の把握や自らの立場が理解できない。	
評価項目2	目的に基づいて、必要な情報収集ができ、具体的に体系的・効率的な分析ができる。			目的に基づいて、必要な情報収集ができ、体系的・効率的な分析ができる。		目的に基づいて、必要な情報収集ができず、体系的・効率的な分析もできない。	
評価項目3	分析した結果をチャート化でき、具体的な傾向をまとめることができる。			分析した結果をチャート化でき、傾向をまとめることができる。		分析した結果をチャート化でき、傾向をまとめることができない。	
評価項目4	分析結果より本質的な問題点を見出し、具体的な解決策を考えることができる。			分析結果より本質的な問題点を見出し、解決策を考えることができる。		分析結果より本質的な問題点を見出し、解決策を考えることができない。	
評価項目5	内容を他人に説明して理解させる能力を十分に身に付けている。			内容を他人に説明して理解させる能力を身に付けている。		内容を他人に説明して理解させる能力を身に付けられない。	
学科の到達目標項目との関係							
デザイン能力 (C) コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	【前期】擬似的に、設定された事実に基づいて自らの立場を理解し、求められる目的に必要な情報を体系的・効率的に収集して分析を行い、分析結果を整理し、全体像を理解して本質的な問題点を見つけ出す能力を養う。 【後期】前期で養った能力を用いて、実践的に問題解決に取り組み、問題解決の手法を習得する。						
授業の進め方・方法	「前期」基本的に課題に対するグループ学習を中心に事業を行う。各課題をクリアするために、これまで学習した講義内容を復習しておくこと。また、課題に対しては図書館やインターネットなどを活用して自主的に情報収集を行う必要があるため、ICT技術を習得しておくこと。 「後期」各研究室において課題に取り組む						
注意点	新しい問題、前例の無い問題に直面したとき、答えを丸暗記しただけの“知識”は何の役にも立たない。得られた情報を基に自分なりのアプローチで論理的に考え、答えを見つけ出し問題を解決していかなければならない。問題を解決するためにはまず『問題を発見』することが重要で、本質的な問題を発見すれば、半分以上解決したと言っても過言ではない。ここでは問題発見を演習にて実践し、答えに至るプロセスを知っているリーダを目指して欲しい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		2週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		3週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		4週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		5週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		6週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		7週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		8週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
	2ndQ	9週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		10週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		11週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		12週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		13週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		14週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		15週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
		16週	各課題に対応する演習			1,2,3,4,5	
後期	3rdQ	1週	各テーマに関する研究			1,2,3,4,5	
		2週	各テーマに関する研究			1,2,3,4,5	
		3週	各テーマに関する研究			1,2,3,4,5	

		4週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		5週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		6週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		7週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		8週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
	4thQ	9週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		10週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		11週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		12週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		13週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		14週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		15週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5
		16週	各テーマに関する研究	1,2,3,4,5

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	演習	発表	課題	取組姿勢	分析・改善案	その他	合計
総合評価割合	20	15	15	25	25	0	100
基礎的能力	0	0	15	25	0	0	40
専門的能力	10	10	0	0	25	0	45
分野横断的能力	10	5	0	0	0	0	15

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	特別研究 2
科目基礎情報						
科目番号	610032		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材						
担当教員	新田 敦己,志賀 信哉,松英 達也,日野 孝紀,高見 静香,松原 靖廣,朝日 太郎,平澤 英之,當代 光陽,真中 俊明					
到達目標						
1. 研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できること。 2. 情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できること。 3. 第三者を納得させる解の導出ができること。 4. 報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができること。 5. プレゼンテーションによる口頭発表ができること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて十分に理解できる。		研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できる。		研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できない。	
評価項目2	情報を収集・分析・編集し、問題の本質が十分に理解できる。		情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できる。		情報を収集・分析・編集し、問題の本質が理解できない。	
評価項目3	報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述が十分にできる。		報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができること。		報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができない。	
評価項目4	プレゼンテーションによる口頭発表表が十分にできる。		プレゼンテーションによる口頭発表表ができる。		プレゼンテーションによる口頭発表表ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
デザイン能力 (C) コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の下に研究を行う。 テーマの分野は、機械工学、材料工学の応用分野である。 年度当初に研究計画書を、学年末に特別研究報告書を提出し、特別研究発表会で報告する。 また学会等において、在学中に1回以上発表を行うことを目標とする。					
授業の進め方・方法	専攻科1年生における授業内容および特別研究 1 を通して学習した内容の復習を行うこと。関連する科目は専攻科で学んだ全科目とする。					
注意点	特別研究1から継続して行う科目である。各自が1つのテーマに取り組むことになるので、しっかりとした計画の下に自主的に研究を遂行してもらいたい。また、特別研究報告書作成や特別研究発表会、学会発表等を通して文章表現能力およびプレゼンテーション能力の向上も心がけてほしい。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		2週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		3週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		4週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		5週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		6週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		7週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		8週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
	2ndQ	9週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		10週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		11週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		12週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		13週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		14週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		15週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		16週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
後期	3rdQ	1週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		2週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		3週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		4週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		5週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		6週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		7週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		8週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
	4thQ	9週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		10週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	
		11週	各テーマに沿った研究		1, 2, 3, 4	

	12週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4
	13週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4
	14週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4
	15週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4
	16週	各テーマに沿った研究	1, 2, 3, 4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	計画立案・遂行能力	特別研究発表会	特別研究報告書	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	30	30	40	100

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機能性材料学 1	
科目基礎情報							
科目番号	610101			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書）これでわかる電気化学 矢野 潤・木谷 皓（三共出版）、参考書）導電性有機薄膜の機能と設計 山下和男・木谷 皓（共立出版）						
担当教員	矢野 潤						
到達目標							
1) 導電率の意味と計算や測定法を理解できること。 2) 結晶中の電子のバンド構造を理解できること。 3) 金属と半導体のキャリアを理解し、それらと導電率の関係を理解できること。 4) 電気化学系における電位の意味と標準電極電位の意味を理解できること。 5) 電解電流や電池電流と反応速度および電気量と物質量の関係が理解できること。 6) 各種電気化学測定法の原理を理解できる。 7) 導電性高分子の機能やその評価法を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	導電率を求める諸式を理解し、導電率の計算や測定法を理解できる。		導電率の計算や測定法を理解できる。		導電率の意味と計算や測定法を理解できない。		
評価項目2	結晶中の電子のバンド構造の形成とバンド構造と導電性との関係を理解できる。		結晶中の電子のバンド構造と導電性との関係を理解できる。		結晶中の電子のバンド構造を理解できない。		
評価項目3	金属と半導体のキャリアを理解し、それらと導電率の関係を理解し計算できる。		金属と半導体の導電率を計算できる。		金属と半導体のキャリアを理解し、それらと導電率の関係を理解できない。		
評価項目4	電気化学系における電位の意味と標準電極電位の意味を理解できる。		電気化学系における電位が物質のエネルギーを表すことが理解できる。		電気化学系における電位の意味と標準電極電位の意味を理解できない。		
評価項目5	電解電流や電池電流と反応速度および電気量と物質量の関係が理解でき、計算できる。		電解電流や電池電流から反応速度を、電気量から物質量を計算できる。		電解電流や電池電流と反応速度および電気量と物質量の関係が理解できない。		
評価項目6	各種電気化学測定法の原理を理解できる。		サイクリックボルタモグラムの原理を理解できる。		各種電気化学測定法の原理を理解できない。		
評価項目7	導電性高分子の機能と原理やその評価法を理解できる。		導電性高分子の機能とその原理を理解できる。		導電性高分子の機能やその評価法を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	白川英樹先生のノーベル化学賞受賞で脚光をあびた導電性高分子は、その導電性はもちろん多種多様な実用面への応用が可能な機能性材料である。この導電性高分子の基礎と電気化学測定法による機能評価法を学び、いかに実用面におうようできるか、またその原理などについても学ぶ。						
授業の進め方・方法	板書を利用した講義、演習などを行いながら授業を進めて行く。授業内容は、電気化学の基礎と導電性高分子とその機能、機能応用である。						
注意点	出席はもちろん授業中や授業外で行なう演習や課題を必ず提出すること。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電気抵抗と導電率		1		
		2週	4端子法による導電率の測定法とその原理		1		
		3週	半導体と金属のバンド構造		2		
		4週	半導体と金属のキャリアと導電率		1、2、3		
		5週	電解質溶液の導電率		1		
		6週	電極電位とその意味		4		
		7週	標準電極電位と参照電極		4		
		8週	ボルツマン因子とネルンストの式		4		
	4thQ	9週	電解電流と反応速度		5		
		10週	電解電流と物質の量的変化		5		
		11週	導電性高分子の種類と機能		7		
		12週	機能評価のための電気化学測定法の理論と実際		6		
		13週	二次電池への応用		6、7		
		14週	エレクトロクロミックディスプレイへの応用		6、7		
		15週	電解効果トランジスタへの応用		6、7		
		16週	期末試験		1、2、3、4、5、6、7		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	30	0	0	0	5	0	35
分野横断的能力	10	0	0	0	5	0	15

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機能性材料学 2	
科目基礎情報							
科目番号	610102			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	高見 静香, 當代 光陽						
到達目標							
到達目標 1. 有機化合物の光化学の基礎原理を理解できること。 2. 機能性有機色素の種類と特徴を理解できること。 3. 液晶、有機ELなどの基礎性質を理解できること。 4. 高温構造材料および生体材料が開発されてきた歴史的経緯を理解できること。 5. 高温構造材料の特徴とその改善例について理解できること。 6. 生体材料の応用例について理解できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	有機化合物の光化学の基礎原理が説明できる。			有機化合物の光化学の基礎原理のいくつかについて例を挙げて説明できる。		光化学の基礎原理を知らない。	
評価項目2	機能性有機色素の種類と特徴を説明できる。			機能性有機色素の種類と特徴を説明できる。		機能性有機色素の種類や特徴を知らない。	
評価項目3	液晶と有機ELの種類と特徴を説明できる。			液晶と有機ELの種類と特徴を例を挙げることができる。		液晶と有機ELの種類や特徴を知らない。	
評価項目4	航空宇宙分野で使用される材料と生体材料の共通点と求められる特性について説明ができ、今後の開発指針について考察できる。			航空宇宙分野で使用される材料と生体材料の共通点と求められる特性について例を挙げて説明ができる。		航空宇宙分野で使用される材料と生体材料の共通点と求められる特性について説明できない。	
評価項目5	高温構造材料の特徴とその改善例について具体的な理論式を用いて説明ができる。			高温構造材料の特徴とその改善例について例を挙げて説明ができる。		高温構造材料の特徴とその改善例について説明ができない。	
評価項目6	生体材料に求められる機能とその応用例について基礎概念を基に説明できる。			生体材料に求められる機能とその応用例について例を挙げて説明できる。		生体材料に求められる機能とその応用例について例を挙げて説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	各種の材料の中で能動的に作用する性質をもつ機能材料に関して、これらの性質が、どのようにして発現し、またどのように制御されているかについて理解する。いくつか例に挙げ、構成原子や電子の挙動・構造等と関連づけて学ぶ。主に、プリントおよび板書を中心に講義を進める。【オムニバス方式】						
授業の進め方・方法	この科目は「材料機能設計学」「機能性材料学1」等に関連する内容であり、受講するにあたっては有機材料、エネルギー変換、半導体、酸化物エレクトロニクスに関する基礎知識を習得しておくことが望ましい。						
注意点	機能材料が新しい機能の付与、高機能化に向けて進歩する中で、機能発現の基本的原理を理解する力を身につけるよう、物理や化学等の幅広い知識の修得に努めて欲しい。 授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	有機光化学の基礎 I			1	
		2週	有機光化学の基礎 II			1	
		3週	機能性有機色素 I			1, 2	
		4週	機能性有機色素 II			1, 2	
		5週	液晶と有機EL I			1, 3	
		6週	液晶と有機EL II			1, 3	
		7週	他の有機機能材料と総括			3	
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	試験返却 航空宇宙材料と生体材料			4	
		10週	航空宇宙分野に使用される高温耐熱材料			5	
		11週	高温耐熱材料としての金属間化合物			5	
		12週	宇宙から生体内へ-生体材料の歴史-			4, 5, 6	
		13週	生体材料学I			4, 6	
		14週	生体材料学II			4, 6	
		15週	これからの構造材料、革新的構造材料			4, 5, 6	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	課題			合計	

総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	20	20
専門的能力	80	0	80
分野横断的能力	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	流体力学特論		
科目基礎情報								
科目番号		610105		科目区分		専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科		生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年		専2		
開設期		後期		週時間数		2		
教科書/教材		流体力学						
担当教員		谷脇 充浩						
到達目標								
1. 流体の性質について、定義と力学的な取り扱い方を説明できる。 2. 静止している流体に作用する力について説明できる。 3. 流体の流れの表現方法や流れを記述する方程式を説明することができる。 4. ポテンシャル流れの理論について説明できる。 5. ナビエ・ストークス方程式を説明することができる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		流体の定義と各種物理量の定義と単位が説明でき、力学的な取り扱いができる。		流体の性質について、各種物理量の定義を知っている。		流体の性質を知らない。		
評価項目2		圧力、浮力などの静止した流体中の圧力に関わる事項が説明でき、力学的な取り扱いができる。		圧力、浮力などの静止した流体中の圧力に関わる基本的な事項が説明できる。		流体中の圧力に関わる基本的な事項が説明できない。		
評価項目3		一次元および二次元にて基礎方程式を表現できる。また、そこから連続の式およびベルヌーイの式を導くことができる。		連続の式およびベルヌーイの式を説明することができる。		流れの表現方法を知らない。		
評価項目4		基本的な流れを複素ポテンシャルを用いて表すことができる。		ポテンシャル流れについて説明できる。		ポテンシャル流れの理論を知らない。		
評価項目5		ナビエ・ストークス方程式を導くことが出来る		ナビエ・ストークス方程式を用いて簡単な粘性流体流れの解析ができる。		ナビエ・ストークス方程式を知らない。		
学科の到達目標項目との関係								
専門知識 (B)								
教育方法等								
概要		流体力学は、流体運動を数学的解析方法により理論的に解明する学問である。流体の工学・工業への応用を中心に、物体に及ぼす流体の作用を数学的に取り扱う手法や考え方を理解することを目的とする。						
授業の進め方・方法		講義により基本的な事項を理解したあと、課題等により理解を深める。						
注意点		流体の運動は一見複雑で取り扱いにくいように見えるが、流体を連続物質と考えて、数量的に観察すると、意外に美しく規則正しく流れている。これらの流れを数理的に扱う手法を理解しよう。						
本科目の区分								
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス					
		2週	流体の性質		1			
		3週	圧力（等方性、等圧面）		2			
		4週	浮揚体の安定性		2			
		5週	流れの基礎（連続の式、流線）		3			
		6週	速度ポテンシャル、流れ関数		3,4			
		7週	複素ポテンシャル（一様流）		4			
		8週	複素ポテンシャル（吸込みと吹き出し）		4			
	4thQ	9週	複素ポテンシャル（円柱まわりの流れ）		4			
		10週	複素ポテンシャル（循環のある流れ）		4			
		11週	粘性流体流れの基礎		3			
		12週	円柱まわりの流れ		3			
		13週	円管内の流れ		3			
		14週	ナビエ・ストークス方程式		5			
		15週	ナビエ・ストークス方程式の厳密解		5			
		16週	試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
		試験		課題		合計		
総合評価割合		80		20		100		
基礎的能力		0		0		0		
専門的能力		80		20		100		

分野横断的能力	0	0	0
---------	---	---	---

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	熱工学
科目基礎情報						
科目番号	610107		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	下村 信雄					
到達目標						
1.マクロ的な熱と仕事の関係のみでなくミクロ的な視点からも説明ができること。 2.運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、簡単な移動計算ができること。 3.エネルギー変換の方法を理解し、各種効率を計算できること。 4.新エネルギーの動向に関して、安全利用を視野に入れた将来社会での位置付けを意識できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	分子運動論や統計に基づくミクロな視点で第1法則を説明できる		分子運動論に基づくミクロな視点で第1法則を説明できる		ミクロな視点で第1法則を説明できない	
評価項目2	運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、気液2相流の簡単な移動計算ができること		運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明できる		運動量・熱・物質移動の相関性を理解できず、移動論も説明できない	
評価項目3	主流である蒸気発電の詳細な仕組みを理解し、タービン内の各種計算ができること		主流である蒸気発電の詳細な仕組みを理解できること		主流である蒸気発電の詳細な仕組みを理解できない	
	直接発電や再生可能エネルギー発電の方式を理解し、各種方式の特徴を説明できること		直接発電や再生可能エネルギー発電の方式を理解できる		直接発電や再生可能エネルギー発電の方式を理解できない	
学科の到達目標項目との関係						
専門知識 (B)						
教育方法等						
概要	人類が利用する全エネルギー量の80%以上が熱エネルギーの形であり、熱工学では、この熱エネルギーの変換と移動について講義と演習を行う。 熱と仕事に関する基礎概念や法則を理解し、熱物質移動やエネルギー変換の基本的な形態について知識を習得して、実際の熱工学に関する基本的な計算問題を解く能力を身に付ける。更に、クリーンエネルギーや新エネルギーに関しても概要も学習する。					
授業の進め方・方法	事前学習：本科4年の「熱力学」5年の「伝熱工学」の復習をしておくこと。 関連科目：「熱力学」「伝熱工学」「伝熱工学特論」 履修上の注意：全ての物体は熱エネルギーを持っており、温度差があるとき熱エネルギーの移動がおこる。伝熱に関する基礎用語を正しく理解すること。そして問題を解く場合、その内容を多面から理解することが大切です。また、常に身の回りにおける熱移動&エネルギー変換に関心を持つこと					
注意点	事前学習：本科4年の「熱力学」5年の「伝熱工学」の復習をしておくこと。 関連科目：「熱力学」「伝熱工学」「伝熱工学特論」 履修上の注意：全ての物体は熱エネルギーを持っており、温度差があるとき熱エネルギーの移動がおこる。伝熱に関する基礎用語を正しく理解すること。そして問題を解く場合、その内容を多面から理解することが大切です。また、常に身の回りにおける熱移動&エネルギー変換に関心を持つこと。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	熱力学的第一法則の再考(1)		1.マクロ的な熱と仕事の関係のみでなくミクロ的な視点からも説明ができること。	
		2週	熱力学的第一法則の再考(2)		1.マクロ的な熱と仕事の関係のみでなくミクロ的な視点からも説明ができること。	
		3週	ミクロな立場からの再考		1.マクロ的な熱と仕事の関係のみでなくミクロ的な視点からも説明ができること。	
		4週	統計熱力学の導入		1.マクロ的な熱と仕事の関係のみでなくミクロ的な視点からも説明ができること。	
		5週	輸送現象論導入		2.運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、簡単な移動計算ができること。	
		6週	気液2相流動現象論（1）		2.運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、簡単な移動計算ができること。	
		7週	気液2相流動現象論（2）		2.運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、簡単な移動計算ができること。	
		8週	気液2相流動現象論（3）		2.運動量・熱・物質移動の相関性を理解し、移動論が説明でき、簡単な移動計算ができること。	
	4thQ	9週	熱・物質同時移動導入		3.エネルギー変換の方法を理解し、各種効率を計算できること。	
		10週	熱・物質同時移動計算		3.エネルギー変換の方法を理解し、各種効率を計算できること。	
		11週	エネルギー変換入門		3.エネルギー変換の方法を理解し、各種効率を計算できること。	
		12週	各種エネルギー変換機器(1)		4.新エネルギーの動向に関して、安全利用を視野に入れた将来社会での位置付けを意識できること	
		13週	各種エネルギー変換機器(2)		4.新エネルギーの動向に関して、安全利用を視野に入れた将来社会での位置付けを意識できること	

		14週	各種エネルギー変換機器(3)	4.新エネルギーの動向に関して、安全利用を視野に入れた将来社会での位置付けを意識できること
		15週	新エネルギーの動向	4.新エネルギーの動向に関して、安全利用を視野に入れた将来社会での位置付けを意識できること
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	伝熱工学特論
科目基礎情報						
科目番号	610109			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材						
担当教員	下村 信雄					
到達目標						
1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること。 2.汎用の解析ソフト ANSYSで数値計算ができること。 3.数値伝熱に必要な流れ場の計算ができること。 4.熱応力による応力計算ができること。 5.数値伝熱計算結果に基づいて、改善仕様のモデル提案と評価ができること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	簡単なモデルで、非定常の熱伝導計算で合理的な結果を得ることができる		簡単なモデルで、非定常の熱伝導計算でとにかく結果を得ることができる		非定常の熱伝導計算ができない	
評価項目2	汎用の熱流体解析ソフトで簡単なモデルの熱伝導計算で合理的な結果を得ることができる		汎用の熱流体解析ソフトで簡単なモデルの熱伝導計算でとにかく結果を得ることができる		汎用の熱流体解析ソフトが使用できない	
評価項目3	流れ場と温度場を連成させてプリント基板上の放熱評価ができる		流れ場と温度場を連成させてプリント基板上の放熱計算ができる		プリント基板上の放熱計算ができない	
	上記2の結果に基づいて伝導解析と構造解析の熱応力計算を連成計算し、妥当な結果を出すことができる		上記2の結果に基づいて伝導解析と構造解析の熱応力計算を連成計算し、とにかく結果を出すことができる		上記2の結果に基づいて伝導解析と構造解析の熱応力計算を連成計算できない	
	3次元の加熱モデルの流入流出仕様を数々評価し最適仕様を決定できる		3次元の加熱モデルの流入流出仕様を数々評価できる		3次元の加熱モデルの流入流出仕様を評価できない	
学科の到達目標項目との関係						
専門知識 (B)						
教育方法等						
概要	人類が利用する全エネルギー量の80%以上が熱エネルギーの形であり、熱工学では、この熱エネルギーの変換と移動について講義と演習を行う。 熱と仕事に関する基礎概念や法則を理解し、熱移動の基本的な形態について知識を習得して、実際の熱工学に関する基本的な計算問題を解く能力を身に付ける。更に、数値伝熱の基礎式の誘導を行い、簡単な熱流体連成の伝熱問題が解けるようにする。					
授業の進め方・方法	事前学習：本科5年で学習した「伝熱工学」の復習をしておくこと。 関連科目：「伝熱工学」「熱工学」 履修上の注意：全ての物体は熱エネルギーを持っており、温度差があるとき熱エネルギーの移動がおこる。伝熱に関する基礎用語を正しく理解すること。そして問題を解く場合、その内容を簡単なCAD操作でモデル化を実施し解析条件を理解することが大切です。また、常に身の回りにおける熱移動現象に関心を持つこと。					
注意点	事前学習：本科5年で学習した「伝熱工学」の復習をしておくこと。 関連科目：「伝熱工学」「熱工学」 履修上の注意：全ての物体は熱エネルギーを持っており、温度差があるとき熱エネルギーの移動がおこる。伝熱に関する基礎用語を正しく理解すること。そして問題を解く場合、その内容を簡単なCAD操作でモデル化を実施し解析条件を理解することが大切です。また、常に身の回りにおける熱移動現象に関心を持つこと。					
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	CFDの概念を理解		1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること	
		2週	熱伝導解析入門		1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること	
		3週	熱伝導解析モデル作成		1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること	
		4週	熱伝導解析モデルの計算		1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること	
		5週	熱伝導方程式の離散化式の導入		1.数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること	
		6週	空間積分法の説明 (1)		2.汎用の解析ソフト ANSYSで数値計算ができること	
		7週	空間積分法の説明 (2)		2.汎用の解析ソフト ANSYSで数値計算ができること	
		8週	時間積分法の説明		2.汎用の解析ソフト ANSYSで数値計算ができること	
	2ndQ	9週	熱流体連成解析方法 (熱応力計算 1)		4.熱応力による応力計算ができること	
		10週	熱流体連成解析方法 (熱応力計算 2)		4.熱応力による応力計算ができること	
		11週	プリント基板放熱解析 (熱・流体計算 1)		3.数値伝熱に必要な流れ場の計算ができること	
		12週	プリント基板放熱解析 (熱・流体計算 2)		3.数値伝熱に必要な流れ場の計算ができること	
		13週	3次元モデルでの改善案検討と評価 (1)		5.数値伝熱計算結果に基づいて、改善仕様のモデル提案と評価ができること	
		14週	3次元モデルでの改善案検討と評価 (2)		5.数値伝熱計算結果に基づいて、改善仕様のモデル提案と評価ができること	

		15週	3次元モデルでの改善案検討と評価（3）			5.数値伝熱計算結果に基づいて、改善仕様のモデル提案と評価ができること	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	材料強度評価法
科目基礎情報					
科目番号	610110		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	基礎強度学 星出敏彦 著 （内田老鶴圃）				
担当教員	谷口 佳文				

到達目標

1. マトリクス法によるトラス構造の解析手法を理解し、簡単な例題の計算ができる。
2. 応力拡大係数の意味を理解し、その値を計算できる。
3. ぜい性材料の破壊靱性値から破壊応力を求めることができる。
4. 非破壊検査の重要性を認識し、その概要を説明できる。
5. 疲労き裂進展の破壊力学的取り扱いを理解し、余寿命の計算ができる。
6. 簡単な構造システムの信頼性を計算できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	トラス構造、2次元弾性体の応力解析手法を理解し、簡単な例題の計算ができる。	トラス構造、2次元弾性体の応力解析手法を説明できる。	トラス構造、2次元弾性体の応力解析手法を説明できない。
評価項目2	き裂を有する材料の力学的取り扱いの基礎理論を理解し、具体例の計算ができる。	き裂を有する材料の力学的取り扱いの基本事項について説明できる。	き裂を有する材料の力学的取り扱いの基本事項について説明できない。
評価項目3	機械構造物の信頼性解析の基本事項を理解し、具体例の計算ができる。	機械構造物の信頼性解析の基本事項について説明できる。	機械構造物の信頼性解析の基本事項について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

専門知識 (B)

教育方法等

概要	機器の安全性を確保するために必要な応力解析（有限要素法）および破壊の原因となるき裂の力学的取り扱い（破壊力学）の基礎理論を習得する。 さらに、機械構造物の信頼性解析の基礎的な考え方についても理解する。
授業の進め方・方法	授業は、教科書および配布するプリントに沿って進める。 授業内容の理解を深めるために、適宜問題演習を行う。また、課題を与えレポートとして提出させる。
注意点	本授業では、本科で履修した数学（特に、行列と行列式、確率）および材料力学を基礎学力として必要とするので、よく復習しておくこと。 授業中に適宜演習を行うので、電卓を必ず用意すること。

本科目の区分

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	マトリクス法によるトラスの解析と演習	1
		2週	マトリクス法によるトラスの解析と演習	1
		3週	マトリクス法によるトラスの解析と演習	1
		4週	二次元弾性問題の解析と演習	1
		5週	二次元弾性問題の解析と演習	1
		6週	二次元弾性問題の解析と演習	1
		7週	応力拡大係数	2
		8週	応力拡大係数	2
	2ndQ	9週	破壊じん性	2
		10週	疲労き裂進展	2
		11週	その他のき裂進展問題	2
		12週	信頼性解析の基礎	3
		13週	確率分布	3
		14週	信頼性設計	3
		15週	期末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	センサー工学
科目基礎情報					
科目番号	610116		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書なし。プリント配布				
担当教員	桑田 茂樹				
到達目標					
1.センサーの定義と分類（種類）を理解し、説明できること。 2.代表的な圧力センサー、温度センサー、光センサー、ガスセンサーの原理を理解し、説明できること。 3.半導体の基本的な特性を理解し、説明できること。 4.代表的な半導体センサーの原理を理解し、説明できること。 5.地球環境のためのセンサーの果たす役割を理解し、説明できること。 6.身近なセンサーについて、その作動原理と応用方法を自学し、発表できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	センサーの定義と分類（3種類以上の分類方法）を理解し、説明できる。		センサーの定義と分類（1種類）を理解し、説明できる。		センサーの定義と分類（1種類）を理解し、説明できない。
評価項目2	各センサーにおいて、実際に使われているセンサーを3つ以上挙げ、その作動原理を説明できる。		各センサーにおいて、実際に使われているセンサーを1つ挙げ、その作動原理を説明できる。		各センサーにおいて、実際に使われているセンサーを1つ挙げ、その作動原理を説明できない。
評価項目3	半導体(n型, p型, 真性)の基本的な特性を理解し、説明できる。ダイオード(p-n接合)やトランジスタの特性についても説明できる。		半導体(n型, p型, 真性)の基本的な特性を理解し、説明できる。		半導体(n型, p型, 真性)の基本的な特性を理解し、説明できない。
評価項目4	代表的な半導体センサーを3つ以上挙げて、その原理を理解し、説明できる。ダイオードを含む電気回路の計算もできる。		代表的な半導体センサーを1つ挙げて、その原理を理解し、説明できる。		代表的な半導体センサーを1つ挙げて、その原理を理解し、説明できない。
評価項目5	地球環境のためのセンサーの果たす役割を理解し、過去の実績や今後の動向等について説明ができる。		地球環境のためのセンサーの果たす役割を理解し、過去の実績の説明ができる。		地球環境のためのセンサーの果たす役割を理解し、過去の実績の説明ができない。
評価項目6	身近なセンサーについて、その作動原理と応用方法を自学し、その作動原理に関連した物理・化学等の法則を含めた配布資料の作成やパワーポイントを用いた発表ができる。		身近なセンサーについて、その作動原理と応用方法を自学し、配布資料の作成やパワーポイントを用いた発表ができる。		身近なセンサーについて、その作動原理と応用方法を自学し、配布資料の作成やパワーポイントを用いた発表ができない。
学科の到達目標項目との関係					
専門知識 (B)					
教育方法等					
概要	各種センサーの応答原理を物理・化学の法則と結びつけて理解することにより、各自の知識の応用訓練を行う。また、後半においては、身近なセンサーについてまとめ、発表（プロジェクター使用）することによりプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。				
授業の進め方・方法	前半では、各種センサーの原理と応用について説明する。（学内にあるセンサー素子は見せる。）後半では、全員が1回身近なセンサーを選択し、プレゼンテーションを行い、相互評価を実施する。（自己評価と他人評価について情報交換（評価者の氏名は公開しない）も行う。）				
注意点	各センサーの原理を理解するためには、物理・数学・化学の基礎知識に基づいて理解することが大切である。				
本科目の区分					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	センサーの定義と分類	到達目標1	
		2週	圧力センサーの原理と種類	到達目標2	
		3週	温度センサーの原理と種類	到達目標2	
		4週	光センサーの原理と種類	到達目標2	
		5週	湿度センサーの原理と種類	到達目標2	
		6週	ガスセンサーの原理と種類	到達目標2	
		7週	半導体の特性	到達目標3	
		8週	半導体センサーの原理と種類	到達目標4	
	4thQ	9週	身近な圧力センサーについての発表（原稿A4 3枚、プロジェクター）	到達目標6	
		10週	身近な温度センサーについての発表（原稿A4 3枚、プロジェクター）	到達目標6	
		11週	身近な光センサーについての発表（原稿A4 3枚、プロジェクター）	到達目標6	
		12週	身近なガス・湿度センサーについての発表（原稿A4 3枚、プロジェクター）	到達目標6	
		13週	身近な半導体センサーについての発表（原稿A4 3枚、プロジェクター）	到達目標6	
		14週	地球環境のためのセンサーの役割	到達目標5	

		15週	期末試験					
		16週	テスト返却と解説					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100	
基礎的能力	20	20	0	0	0	0	40	
専門的能力	30	30	0	0	0	0	60	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	ディジタル信号処理	
科目基礎情報							
科目番号	610117			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	今西 望						
到達目標							
1. ノイズと信号の区別ができる 2. スペクトル解析とは何かが理解できる 3. F F Tの用途が理解できる 4. 用途に応じたモデルベース信号処理が理解できる 5. ディジタルフィルタが理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	ノイズと信号の区別ができる		ノイズが理解できている		ノイズと信号が理解できていない		
評価項目2	スペクトル解析が説明できる		スペクトル解析が理解できている		スペクトル解析が理解できていない		
評価項目3	F F Tの用途が理解できる		F F Tが理解できる		F F Tが理解できていない		
評価項目4	用途に応じたモデルベース信号処理を実装できる		モデルベース信号処理が理解できる		モデルベース信号処理が理解できていない		
評価項目5	ディジタルフィルタを実装できる		ディジタルフィルタが理解できている		ディジタルフィルタが理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	信号処理とは、光学信号、音声信号、電磁気信号などの様々な信号を数学的に加工するための学問・技術です。本講義ではコンピュータを用いたディジタル信号処理に注目し、膨大な時系列データから重要な情報を抽出するための前処理としての信号処理に重点を置く。ノイズが重畳した観測信号からの元信号の抽出などをMATLABやscilabによるプログラミングやSimulinkやxcosを利用した演習をとおして学ぶ。						
授業の進め方・方法	本講義では、基本的に信号処理の理論を講義で学び、講義の後に出す演習課題にて理論を実践することで内容を深く理解できるように進めていく。ディジタル信号の基本とフーリエ変換の基礎からMATLAB/Simulinkあるいはscilab/xcosを用いた信号処理を学び、目的に応じた信号処理の手法を実際の測定データに適用することにより、その有効性について確認する。						
注意点	本科目でモデルベースの信号処理を学ぶに当たって、ブロック線図が理解できることが前提となります。したがって本科で機械制御あるいは計測制御工学を履修済みであることが望ましい。制御系の科目を履修済みの学生もブロック線図が読み書きできるように復習を、履修していない学生についてはよく事前学習をしてください。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	学主内容・注意事項の説明 MATLAB/SCILABの使い方の説明				
		2週	ディジタル信号 サンプリング定理				
		3週	ノイズ信号 SN比				
		4週	スペクトル解析 フーリエ級数				
		5週	フーリエ変換				
		6週	逆フーリエ変換				
		7週	高速フーリエ変換 (FFT・IFFT)				
		8週	試験				
	4thQ	9週	ディジタルフィルタ				
		10週	Z変換・畳み込み積分				
		11週	モデルベース信号処理 (simlink/xcosの使い方)				
		12週	FIRフィルタ IIRフィルタ				
		13週	ディジタルフィルタ実装例 平滑化フィルタ・差分フィルタ				
		14週	ディジタルフィルタ実装例 コムフィルタ・メジアンフィルタ				
		15週	ディジタルフィルタの設計法 双一次変換				
		16週	試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	品質・安全管理	
科目基礎情報							
科目番号	610118			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	配布プリント／よくわかるリスクアセスメント-事故未然防止の技術 向殿政男著 (中災防新書)／事故から学ぶ技術者倫理 中村昌允著 (工業調査会)						
担当教員	太田 潔,未 定						
到達目標							
1. 品質管理の目的と意義を説明できること。 2. 品質計画から品質改善までのPDCAサイクルの重要性を説明できること。 3. 品質管理の実践としてのQC7つ道具の使い方を説明できること。 4. 安全管理の視点から技術者の倫理の重要性を説明できること。 5. 安全の概念およびリスク管理の考え方を簡単に説明できること。 6. 安全性評価の方法や未然防止技術について簡単に説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	品質管理の目的と意義を複数の具体例を挙げながら説明できる		品質管理の目的と意義を説明できる		品質管理の目的と意義を説明できない		
評価項目2	品質計画から品質改善までのPDCAサイクルの重要性を複数の事例を挙げながら説明できる		品質計画から品質改善までのPDCAサイクルの重要性を説明できる		品質計画から品質改善までのPDCAサイクルの重要性を説明できない		
評価項目3	品質管理の実践としてのQC7つ道具の使い方を複数の事例を挙げながら説明できる		品質管理の実践としてのQC7つ道具の使い方を説明できる		品質管理の実践としてのQC7つ道具の使い方を説明できない		
評価項目4	安全管理の視点から技術者の倫理の重要性を複数の事例を挙げながら説明できる		安全管理の視点から技術者の倫理の重要性を説明できる		安全管理の視点から技術者の倫理の重要性を説明できない		
評価項目5	安全の概念およびリスク管理の考え方を複数の事例を挙げながら説明できる		安全の概念およびリスク管理の考え方を簡単に説明できる		安全の概念およびリスク管理の考え方を簡単に説明できない		
評価項目6	安全性評価の方法や未然防止技術について複数の事例を挙げながら説明できる		安全性評価の方法や未然防止技術について簡単に説明できる		安全性評価の方法や未然防止技術について簡単に説明できない		
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B) 教養・技術者倫理 (D)							
教育方法等							
概要	技術者が企業において製品を製造する上において、安定した製品を安全に消費者に供給することを念頭におくことは最も重要である。この授業では、生産現場で必要とされる品質管理と安全管理について、企業の技術者による講義を通してその重要性を認識することを目的とする。						
授業の進め方・方法	集中講義として開講する。授業の欠席回数が1/4を超えた場合は、原則として単位を認定しない。						
注意点	品質管理と安全管理について生産現場に近い技術者の生の話を聞くことで、技術者として必要とされる基本的な管理の考え方を知ってもらいたい。事前学習としては、本科開講の経営工学、技術者倫理をしっかりと学習しておくこと。専攻科での関連科目は、起業工学、ベンチャービジネス概論である。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	品質管理とは (品質管理の目的、TQCとTQM、QCストーリー、PDCAサイクル)				
		2週	品質計画、品質管理の実践1 (サンプリング法、QC7つ道具)				
		3週	品質管理の実践2 (QC7つ道具)				
		4週	品質保証、品質改善、製造物責任と消費者保護				
		5週	安全と技術者の倫理				
		6週	安全とは (安全・リスクの概念、リスク管理の考え方、産業災害の実態)				
		7週	安全性評価 (システム解析 (HAZOP、FMEA、FTA) など)				
		8週	未然防止技術 (フェールセーフ、フェールブルーフなど)				
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合

	レポート	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	量子エレクトロニクス	
科目基礎情報							
科目番号	610122			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻 (環境材料工学コース)			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	福田 京也						
到達目標							
1光の放出と吸収、レーザーの原理について説明できること 2二準位原子におけるコヒーレント相互作用について説明できること 3レーザーを用いた応用技術について説明できること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	アインシュタインのA・B係数を使って光の吸収放出を説明でき、レーザー発振原理を説明できる			自然放出・誘導放出現象およびレーザーによる光増幅原理について説明できる		光の放出と吸収、レーザーの原理について説明できない	
評価項目2	ラビ振動について理解した上で二準位原子のコヒーレント相互作用について説明できる			二準位原子におけるレーザー光の影響について説明できる		二準位原子におけるコヒーレント相互作用について説明できない	
評価項目3	最新の研究動向を理解した上でレーザー応用技術について具体的に説明できる			レーザーを用いた応用技術について説明できる		レーザーを用いた応用技術について説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	原子、分子、イオンなどの物質と電磁波とのコヒーレントな相互作用を研究し、通信・制御あるいは計測に利用する学問・技術分野である量子エレクトロニクスについて学ぶ。						
授業の進め方・方法	最初に量子論の基礎を学び、その後レーザーの基礎的過程 (吸光、自発的放出、誘導放出)、光と物質の相互作用、レーザー分光を用いる種々の精密測定法とその関連分野について学習する。						
注意点	「授業内容」に対応する配布プリントの内容を事前に読んでおくこと。課題として、授業の復習となる演習問題を課すので、しっかり解けるようになっておくこと。本科目の理解には、数学、物理、化学の基礎的な素養を必要とする。内容は電子工学、量子力学と関連している。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	量子エレクトロニクスの基礎 1 量子論概論、シュレーディンガー方程式			1	
		2週	量子エレクトロニクスの基礎 2 各種ポテンシャルの波動関数、行列表示			1	
		3週	光の伝播			1	
		4週	光の放出と吸収 1			1	
		5週	光の放出と吸収 2			1	
		6週	レーザーの基礎と原理			1	
		7週	レーザーの種類と特性			1	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	コヒーレントな相互作用 1 (二準位原子と光のコヒーレント相互作用)			2	
		10週	コヒーレントな相互作用 2 (スペクトル線の幅とその意味)			2	
		11週	いろいろな分光法 (分光の基礎と非線形分光)			2,3	
		12週	レーザーの周波数安定化			3	
		13週	周波数計測法			3	
		14週	レーザー冷却、ドップラー冷却			3	
		15週	量子エレクトロニクスの応用 原子時計、超精密分光			3	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	基礎量子化学	
科目基礎情報							
科目番号	610123			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産工学専攻（環境材料工学コース）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	アトキンス 物理化学（上）第10版 中野 元裕他 訳 （東京化学同人）						
担当教員	勝浦 創						
到達目標							
1. 光や電子の二重性について説明できること。 2. ボーアの原子模型を説明できること。 3. シュレディンガー方程式を導くことができること。 4. 並進運動に関してシュレディンガー方程式を解くことができること。 5. 重ね合わせの原理について説明できること。 6. 不確定性原理について説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	光や電子の二重性について、実験例を上げて具体的に説明できる。		光や電子の二重性について、説明できる。		光や電子の二重性について、説明できない。		
評価項目2	ボーアの原子模型、およびその問題点を説明できる。		ボーアの原子模型を説明できる。		ボーアの原子模型を説明できない。		
評価項目3	時間に依存する及びしないシュレディンガー方程式を導くことができる。		時間に依存しないシュレディンガー方程式を導くことができる。		シュレディンガー方程式を導くことができない。		
評価項目4	3次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができる。		1次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができる。		1次元の並進運動に関するシュレディンガー方程式を解くことができない。		
評価項目5	重ね合わせの原理について数式と言葉を用いて説明できる。		重ね合わせの原理について言葉で説明できる。		重ね合わせの原理について説明できない。		
評価項目6	不確定性原理について数式と言葉を用いて説明できる。		不確定性原理について言葉で説明できる。		不確定性原理について言葉で説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
自然科学および複合的な工学の知識 (A)							
教育方法等							
概要	個々の原子、分子について理解するためにシュレーディンガーの波動方程式、不確定性原理など量子論の概念を理解する。これらを用いて水素型原子の構造とスペクトルについて理解することを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義を中心に進める。						
注意点	物理（力学、波）と数学（演算子、直交座標と極座標の変換）について復習しておいてください。講義で導いた式を自ら誘導してみるなど積極的に取り組んでもらいたい。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	黒体輻射と光電効果		1		
		2週	光の二重性		1		
		3週	水素原子の構造		2		
		4週	水素のスペクトルとボーアの水素モデル		2		
		5週	ド・ブロイ波と波の式		1,3		
		6週	シュレディンガー方程式		3		
		7週	波動関数に含まれる情報		3		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却・1次元の箱の中の粒子1		4		
		10週	1次元の箱の中の粒子2		4		
		11週	3次元の箱の中の粒子		4		
		12週	系の一般的状態と固有値				
		13週	古典物理量の演算子の性質				
		14週	重ね合わせの原理		5		
		15週	不確定性原理		6		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0